

兵庫籠球

H Y O G O B A S K E T B A L L I N F O R M A T I O N

No.174



令和5年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会兵庫県予選
男子 6年ぶり32回目優勝の育英
女子 4年連続4回目優勝の三田松聖

Contents

P.2
第75回 兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会

P.6
第33回 近畿高等学校バスケットボール新人大会

P.9
令和4年度 アシックス杯

P.10
第34回 兵庫県バスケットボールカーニバル

P.13
第67回 兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
令和5年度 兵庫県高等学校バスケットボール大会

P.17
第70回 近畿高等学校バスケットボール大会

P.21
第6回 兵庫県社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会
兵庫県予選大会

P.24
令和5年度 全国高等学校総合体育大会
バスケットボール競技大会（インターハイ2023）

P.28
特別国民体育大会
第78回 冬季国民スポーツ大会近畿ブロック大会
バスケットボール競技

P.33
第78回 兵庫県総合バスケットボール選手権大会
兼 第99回天皇杯・第90回皇后杯
全日本バスケットボール選手権大会 兵庫県代表決定戦

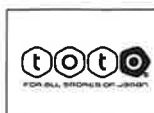
P.36
特別国民体育大会 ～燃ゆる感動がごしま国体～

P.37
令和5年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会兵庫県予選
兼 第77回 兵庫県民体育大会バスケットボール競技

P.41
第77回 兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）

P.44
ウインターカップ2023
第76回 全国高等学校バスケットボール選手権大会

スポーツくじ



第75回 兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会

3年ぶりの県新人1位決めの栄冠は、男子・報徳、女子・三田松聖

令和5年2月4日(土)～6日(月)

ヴィクトリーナ・ウインク体育館（姫路市立中央体育館）、西播地区の体育館・高等学校

《総評》

令和4年度の県高校新人選抜優勝大会は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた時期に開催され、これまでの2大会は4ブロックに分けてのトーナメントだったものが、3年ぶりに1位を決めるトーナメントに戻された。保護者などチーム関係者のみとなったが、観客を入れた開催となった。

女子準決勝は、阪神地区予選準決勝で宝塚西に68-70で負けた市尼崎が、59-56でその宝塚西に競り勝ってリベンジを果たした。もう一方の準決勝は、鳴尾および神港学園という強豪に競り勝ってきた園田を、三田松聖が85-46で圧倒した。女子決勝は前半でリードを奪った三田松聖が、追いつく市尼崎を振り切って勝ち、4年ぶり2度目の優勝を飾った。

男子準決勝は、報徳が粘る尼崎双星を78-63で振り切り、体調不良者が相次いだために阪神地区予選決勝で尼崎双星に敗れたリベンジを果たした。もう一方の準決勝は神戸地区対決となり、育英が村野工を81-43で圧倒した。男子決勝は第1Qでのリードを守り切り、報徳が育英を破って3年ぶり4度目の優勝を飾った。

女子・三田松聖、男子・報徳ともに昨年10月の全国選手権（ウインターカップ）県予選を制しており、新チームでも県の頂点に立った。なお、3位決定戦において女子は宝塚西が、男子は尼崎双星が勝利し、決勝進出チームとともに滋賀県で開催される近畿高校新人大会に出場する。両チームとも長身者がいない公立高校であり、その健闘に大きな拍手を送りたい。特に尼崎双星は第4Qを22-5で圧倒し、5点差で村野工から鮮やかな逆転勝利を収めた。また、公立の進学校である男子・加古川東が5位決定戦で神戸科技を73-71で破ったことも、大いに称えられるべきであろう。

【男子優秀選手】

- 星原 甲治（報徳学園高等学校 ⑬）
- 森本 虎志（報徳学園高等学校 ⑦）
- 井藤 匠哉（報徳学園高等学校 ⑨）
- 山川 英哲（育英高等学校 ⑤）
- 村上 心清（尼崎市立尼崎双星高等学校 ⑧）
- 大道 琥哲（神戸村野工業高等学校 ④）
- 坂田 凜（兵庫県立加古川東高等学校 ⑬）
- 稲見 翔斗（三田松聖高等学校 ⑫）
- 藤本 惟来（神戸市立科学技術高等学校 ⑬）
- 穂山 宇良（尼崎市立尼崎高等学校 ⑨）

【女子優秀選手】

- 竹中 凜（三田松聖高等学校 ⑬）
- 崔 璃陽（三田松聖高等学校 ⑧）
- 東 寧音（三田松聖高等学校 ⑬）

- 山根 遥夏（尼崎市立尼崎高等学校 ④）
- 池田 心音（兵庫県立宝塚西高等学校 ⑫）
- 大西 そら（園田学園高等学校 ④）
- 朝霧 咲瑛（日ノ本学園高等学校 ④）
- 島谷 芽依（神戸龍谷高等学校 ⑧）
- 橋本 怜奈（神港学園高等学校 ④）
- 今仲 陽菜（神戸星城高等学校 ⑦）

男子

決勝

報徳 72										育英 60									
報徳										育英									
反則	自投	②野	③野	得点	山本	獅子	No.	No.	堀川	優太	得点	③野	②野	自投	反則				
—	—	0	0	0	宮園	遼	2	3	竹本	龍二	11	0	2	1	3				
0	0	0	0	0	富本	真脩	3	5	長田	祐聖	6	2	0	0	1				
—	—	—	—	—	江岡	大登	5	6	山内	康生	2	0	1	0	0				
5	3	0	11	森本	虎志	7	8	中田	翔	—	—	—	—	—	—				
0	2	1	7	森	脩平	8	11	藤村	日向	2	0	1	0	4	—				
3	1	3	2	13	大澤	一輝	10	15	竹内	英太	—	—	—	—	—				
2	7	4	0	15	星原	甲治	13	17	三井	太雅	—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	久保	晴熙	15	18	羽澤	要	13	0	6	1	5				
0	0	2	1	7	福本	有都	21	22	馬場	瑠音	1	0	0	1	2				
—	—	—	—	—	山田	眞尋	22	27	中尾	生	—	—	—	—	—				
0	0	0	0	0	安藤	涼一郎	65	31	熊谷	壮真	—	—	—	—	—				
0	1	1	0	3	北村	優光	71	39	竹内	琉人	16	4	2	0	4				
3	0	0	0	0	美川	祐亮	74	57	山川	英哲	9	0	3	3	3				
4	1	3	3	16	井藤	匠哉	97	91	廣井	悠真	—	—	—	—	—				
14 15 18 7 72										60 8 15 6 25									



戦評

【第1Q】

育英⑬羽澤のミドルシュートでゲームがスタートする。その後は、報徳が内外角にバランスの良いオフェンスで得点を重ね主導権を握るものの、育英は⑨竹内、⑤長田の3Pシュートで喰らいつく。報徳は⑦井藤の3本の3Pシュートとバスケットカウントの活躍で24-12とリードを広げ、第1Q終了。

【第2Q】

報徳は⑩大澤の連続3Pシュートでさらにリードを広げるが、育英も⑬羽澤のリバウンドシュートで対抗する。報徳⑦森本が鋭いドライブからファウルをもらうなど、報徳は確実に点数を重ねリードを広げる。残り1分45秒、39-23と報徳が16点リードしたところで育英がタイムアウト。なんとか差を縮めたい育英は3Pシュートとゴール下の連続得点で反撃し、39-31と8点差まで縮めて前半終了。

【第3Q】

出だしから互いに得点を重ねる展開が続く。育英が激しいディフェンスから③竹本の3Pシュートや速攻、⑤山川のドライブで得点し、残り3分で1点差まで追いつける。しかし、報徳も内外角でバランス良く得点を重ね、57-47と報徳10点リードで勝負は最終Qへ。

【第4Q】

第3Qと同様に互いに出だしは互いに得点を重ね、なかなか点差が縮まらない。育英は③竹本、⑨竹内の3Pシュートで流れを掴みかけるが、報徳⑦森本の連続得点で流れは一気に報徳に。その後も報徳⑬星原が落ちていてフリースローを決め、72-60で報徳が勝利した。この勝利により報徳は3大会ぶり4回目の優勝を果たした。



女子

決勝

三田松聖 96

27-18・23-19

22-21・24-22

80 市尼崎

三田松聖										市尼崎									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則							
1	0	1	0	2	東 奈那	7	4	山根 遥夏	8	0	4	0	1						
1	4	7	0	18	崔 瑞陽	8	5	河嶋れのん	5	1	1	0	2						
-	-	-	-	-	東中 梓	9	6	杉本 菜奈	13	1	5	0	2						
0	0	0	0	0	竹内 愛	10	7	和田 菜奈	2	0	0	2	0						
3	8	9	0	26	竹中 凜	13	8	魚住 帆香	13	1	5	0	1						
1	2	3	5	23	東 寧音	16	9	大野 詩歩	8	0	3	2	4						
4	2	4	1	13	渡部 陽美	17	10	小堀 愛音	18	4	3	0	5						
-	-	-	-	-	花房 凜都	30	11	松高 翠優	-	-	-	-	-						
2	0	4	2	14	岡田 心和	48	13	山田 咲希	-	-	-	-	-						
-	-	-	-	-	阿部 芽奈	56	14	上田 心菜	6	0	2	2	3						
-	-	-	-	-	白箸 空知	77	15	細見 彩花	4	0	2	0	1						
-	-	-	-	-	初谷 一葉	85	16	古森 果奈	-	-	-	-	-						
								17 西村 笑楽	3	1	0	0	1						
								19 松野 希咲	-	-	-	-	-						
								22 江野脇理琴	-	-	-	-	-						

12 16 28 8 96

80 8 25 6 20

戦評

【第1Q】

三田松聖は⑬竹中のゴール下シュートで先制点を奪い、⑧崔のオフenseリバウンドからの得点などで、順調に得点を重ねる。市尼崎は⑧魚住がゴール下シュート、3Pシュートなど多彩なプレーで得点するも、三田松聖⑯東が3本の3Pシュートを決め、27-18と三田松聖が主導権を握り第1Q終了。

【第2Q】

三田松聖は開始早々⑯東が3Pシュート、ミドルシュートの連続得点でさらにリードを広げた。市尼崎はなかなかシュートが決まらず、苦しい時間が続いたが、⑤河嶋、⑩小堀の連続3Pシュートで流れを取り戻した。しかし三田松聖は⑭岡田のバスケットカウントなどで市尼崎を寄せ付けず、50-37と三田松聖がリードして前半終了。

【第3Q】

三田松聖はゴール下、市尼崎はドライブからの得点で一進一退の攻防が続いた。残り6分で三田松聖は⑬竹中のオフenseリバウンドからのバスケットカウントで一気に流れが傾き、市尼崎がたまたずタイムアウト。タイムアウト後、市尼崎は⑩小堀の3Pシュート

やドライブで連続得点して立て直すも、72-58と三田松聖がリードして最終クォーターへ。

【第4Q】

市尼崎は④山根のドライブから⑨大野へのアシストで得点し、⑩小堀の3Pシュート、⑧魚住の得点などで10点差まで詰め寄るが、三田松聖⑬竹中のポストプレーへのファウルが積み重なり、残り7分で⑩小堀がファウルアウト。三田松聖は⑧崔、⑬竹中がリバウンド、ゴール下シュートなどで確実に得点を重ねた。残り2分30秒で市尼崎がオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけるも、三田松聖はファウルで得たフリースローを確実に決め、96-80で三田松聖が勝利した。

兵庫県高等学校新人バスケットボール選抜優勝大会

キャプテンインタビュー

男子

優勝チーム

報徳学園高等学校

⑧ 森 脩平くん

⑩優勝を決めた今の気持ちは

①チーム全員での勝利だと思います。本当に良かったです。

⑩決勝戦を振り返って

①試合を通してディフェンスとリバウンドに力を入れて、全員で堅く守りました。3Qの途中に1点差まで詰められましたが、ディフェンスやリバウンドから自分たちの流れをもてることができました。

⑩今大会を振り返って

①初戦では気持ちが入っておらず、ミスが多かったと感じています。ただ、決勝に近づくにつれて試合に集中することができ、ミスを減らしていくことができました。

⑩キャプテンとして心掛けてきたこと

①みんなが元気にプレーできるように常に声を掛けることを心掛けています。また、ベンチ内外関係なくお互いが声を掛けられるような雰囲気作りにも取り組んでいます。

⑩チームのアピールポイント

①ガードとインサイドの選手それぞれ能力が高く、連携が取れてバランスがいいところです。

⑩チームの課題

①いっぱいあるけれど、まずはオフenseでのミスを減らすことです。また、偶然できたようなプレーではなく再現性のあるプレーを増やしていくことがチームの課題だと思います。

⑩全国大会での目標

①全国ではベスト8以上を目指しています。応援よろしくお願いします。

女子

優勝チーム

三田松聖高等学校

⑧ 崔 瑞陽さん（ゲームキャプテン）

⑧⑤ 初谷 一葉さん（チームキャプテン、怪我中）

⑩優勝を決めた今の気持ちは

①すごく嬉しいです！

⑩決勝戦を振り返って

①⑧崔 相手に大きい選手が多かったのでリバウンドで負けないように、試合を通して積極的にボールに絡みに行くよう心掛けました。

⑧⑤初谷 3Qの最初に流れが持っていかれそうになった時に焦りました。それでも自分たちの力で流れを取り戻せたことが、勝負のポイントだったと思います。

⑩今大会を振り返って

①⑧⑤初谷 自分は怪我をしていてプレーできなかったけど、その分他の2年生みんながチームを引っ張ってってくれたのがとても嬉しかったです。

⑩キャプテンとして心掛けてきたこと

①⑧⑤初谷 怪我をしているので出来ることは少ないですが、試合中にコートからベンチに帰ってくる人をできるだけ温かく迎えられるよう、ベンチワークに率先して取り組んだり声を掛けたりしました。

⑩チームの好きなところ

①⑧崔 みんながアツいところです。時々笑顔を交えながら、一生懸命練習に取り組むことができるととても良いチームです。

⑩チームの課題

①⑧⑤初谷 アツいとは言ったものの、全員が前に前にというよりは誰かが引っ張ってそれについていくという控えめな場面も多いです。なので、一人一人が引っ張っていけるような人間力を高められるように普段の練習から取り組んでいきたいです。

⑩全国大会での目標

①⑧⑤初谷 直接は聞いてないのですが、自分たちの代に期待してくれていることを噂で聞きました。そんな先生に恩返しできるように、全国大会のメインコートに連れて行くのがチーム全員の目標です。



第33回 近畿高等学校バスケットボール新人大会

男子・報徳、女子・三田松聖 とともに激戦を制してベスト8

会場：滋賀ダイハツアリーナ

日時：令和5年2月18日（土）～19日（日）

《総評》

新型コロナウイルス禍によって3大会ぶりの開催となった近畿新人大会は、昨年12月に完成したばかりの滋賀ダイハツアリーナで開催された。男子決勝は東山（京都）が82-68で京都精華（京都）に勝ち、京都府決勝リーグにおいて4点差で敗れたりベンジを果たし、3大会連続5回目の優勝を飾った。女子決勝は、昨年のウインターカップ全国優勝メンバーが1・2年生に多く残る京都精華が103-68で大阪薫英女学院（大阪）を寄せ付けず、初優勝を飾った。

男子の兵庫県勢は、1回戦で尼崎双星が準優勝した京都精華に対し、第3Qを10-25と巻き返して8点差まで追いつけたが、最終Qに突き放された。報徳は留学生のいる和歌山南陵（和歌山）にリードされ続けたが、試合終了2分前から鮮やかな逆転劇を見せ、5点差で競り勝った。⑬星原が21得点、⑭福本が3Pシュート4本を含む14得点と活躍した。育英は優勝した東山に前半で2点のリードを奪う健闘をみせたが、7点差で敗退した。育英は⑩堀川の16得点など4名が10得点以上を記録したが、東山は⑤瀬川（1年、神戸市立本山南中出身）が31得点を稼いでチームを牽引した。唯一2回戦に進んだ報徳は、前半に粘りを見せたものの大阪学院（大阪）に敗れた。

女子の兵庫県勢は、1回戦で宝塚西は②池田が21得点と奮闘するも、京都両洋（京都）に地力の違いを見せつけられて敗れた。市尼崎は優勝した京都精華に高さ、スピード、技術で圧倒された。三田松聖は滋賀短大附（滋賀）とのWオーバータイムを何とか制した。⑬竹中凜が24得点、⑰渡部が1年生ながら19得点を挙げた。唯一2回戦に進んだ三田松聖は、そこで大阪桐蔭（大阪）のスピードとディフェンスに圧倒された。

（戦評は滋賀県高体連のものを改変しています）

男子

1回戦

京都精華 86 [25-15・26-13
10-25・25-8] 61 尼崎双星



報徳 66 [7-20・18-14
16-12・25-15] 61 和歌山南陵



東山 80 [20-22・16-16
20-17・24-18] 73 育英



準々決勝

大阪学院 95 [24-18・15-14
30-16・26-10] 58 報徳

戦評

第1Q、序盤はお互いドライブを中心に交互に得点していく。中盤からは大阪学院がオールコートのゾーンプレスを仕掛け、⑥太田の3Pシュートやドライブでじわじわと点差を開ける。しかし、報徳も要所で速攻や⑦井藤のドライブで得点を決め、完全には流れを渡さない。

第2Q、報徳学園もディフェンスをオールコートゾーンに変更。両チームがハードなディフェンスとルーズボールを展開し、お互いに得点が伸びない。終盤には大阪学院⑥太田が3Pシュートを決めて流れを掴んだかと思われたが、報徳学園も⑬星原のブッシュなど得点を決めて譲らない。残り2分を切ったところで報徳がタイムアウトを取り、そこから得点を重ねて前半終了。大阪学院が39-32とリードして後半へ。

第3Q、大阪学院は④槌田や⑰舟谷の3Pシュートを中心に様々な選手が得点し、報徳がたまたまタイムアウト。その後は大阪学院が得点したと思えば報徳学園⑦井藤が連続得点し、引き続き拮抗した展開が続くように思われた。しかし、終盤にかけて大阪学院が⑰舟谷のドリブルジャンパーや連続3Pシュートで一気に点差を離れた。



報徳もタイムアウトを取り流れを掴もうとするが、大阪学院も簡単には譲らない。69-58と大阪学院がリードを広げて最終Qへ。

第4Q、大阪学院は第3Qの勢いそのままに、⑥太田の3Pシュートや⑧高口のリバウンド、全員での速攻で得点を重ねる。報徳学園も負けじとドライブなどから得点を狙うが、大阪学院のディフェンスの強度は最後まで落ちず、なかなか崩すことができない。大阪学院が最後まで攻撃と守備の手を緩めず、大阪学院が勝利した。両チームともディフェンスとルーズボールを最後まで頑張る良いゲームであった。



女子

1回戦

京都両洋（京都） 85 [22-11・23-10
21-13・19-20] 54 宝塚西



京都精華 (京都) 99 [31 — 5・30 — 4] 33 市尼崎
[23 — 10・15 — 14]



三田松聖 74 [14 — 14・13 — 7] 70 滋賀短大附 (滋賀)
[13 — 17・15 — 17]
19 — 15



準々決勝

大阪桐蔭 (大阪) 73 [20 — 5・17 — 12] 44 三田松聖
[26 — 14・10 — 13]

戦評

第1Q、両チームマンツーマンディフェンスでスタート。なかなか得点が決まらないなか、大阪桐蔭⑥小池がスティールからのシュートを決める。三田松聖はセンターを中心に攻撃するが、なかなか点数が決まらない。三田松聖、たまたま残り5分でタイムアウトを請求。その後も、大阪桐蔭がリバウンドからの速攻で確実に得点を重ねる。

第2Q、大阪桐蔭は出だしからスピードのあるオフェンスで得点

を重ねる。三田松聖も果敢に攻めて流れを掴もうとするも、なかなか得点につながらない。両チームとも試合の流れを掴みきれずに前半を終える。

第3Q、三田松聖はマンツーマンで要所にトラップを仕掛け、ディフェンスから転機をうかがう。大阪桐蔭はオールコートマンツーマンプレスでプレッシャーをかけ、速攻で点差を広げる。残り3分から三田松聖はディフェンスをオールコートマンツーマンに変えてプレッシャーをかけるが、大阪桐蔭がスピードで上回り、ボールを奪うまでに至らない。三田松聖は⑩渡部を中心にオフェンスを組み立てて得点に繋げるも、点差が縮まらない。

第4Q、センターを中心に攻撃を続ける三田松聖。大阪桐蔭が3名もファウルアウトをしたのを機に、ミスマッチを突くハイ・ローのポストの合わせで得点を重ねる。対する大阪桐蔭も、時間をゆっくり使い一本一本着実にシュートを決めていく。延長戦を制して勝ち上がった三田松聖が粘りを見せるも、スピードで勝る大阪桐蔭が73-44で勝利した。



令和4年度 アシックス杯

令和5年3月5日(日)
兵庫県立総合体育館



《総評》

兵庫県のU12・U14・U16の選手たちが、同一日・同一会場に一堂に会し、縦のつながりと県外との交流を目的として、感染防止に気を付けながら「令和4年度アシックス杯」が有観客で開催された。

- 主催 一般財団法人 兵庫県バスケットボール協会
- 主管 兵庫県ユース育成委員会
- 後援 アシックスジャパン株式会社
- 日時 令和5年3月5日(日) 9:00～18:00
- 会場 兵庫県立総合体育館

○U16・U14は県DCチーム、U12は県選抜チーム(6分6クォーター制)。U16は県外チームの都合がつかず、県内の高校チームと対戦した。

○アシックスジャパン株式会社がバスケットシューズの試し履きコーナーを設置し、選手のパフォーマンス向上にシューズの観点からアドバイスをした。試合に履いて出場する選手もいた。

○多くの方に観戦いただき、選手たちははつらつとプレーし、観戦者にも喜んでいただけた。選手・スタッフとともに他のカテゴリーの試合を観戦し、情報交換をするなど交流が持てた。

男子

対戦結果

U16兵庫 51 — 106 育英

U16兵庫 41 — 88 育英



U14兵庫 89 — 58 和歌山

U14兵庫 96 — 63 和歌山

U12兵庫 79 — 63 奈良

U12兵庫 72 — 64 京都



女子

対戦結果

U16兵庫 71 — 77 神戸龍谷

U16兵庫 78 — 75 神戸龍谷

U14兵庫 95 — 48 和歌山

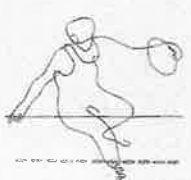
U14兵庫 93 — 49 和歌山



U12兵庫 65 — 55 奈良

U12兵庫 60 — 50 京都





第34回

兵庫県バスケットボールカーニバル

4年ぶりに開催！

2023年3月21日（火・祝） グリーンアリーナ神戸

《総評》

新型コロナの影響で2020年から中止されていたバスケットボールカーニバルが、4年ぶりに開催された。4面のコートを使い、各カテゴリー別に多くの熱戦が展開された。Wリーグの姫路イーグレッツによるU12女子へのアライメント（合わせ）についての講習会やフリースロー大会も実施された。西宮ストークスのマスコットキャラクター、ストーキーも参加してカーニバルを盛り上げた。



Time Schedule

開 場 8：45

時間	Aコート	時間	Bコート	時間	Cコート	時間	Dコート
10:00	U12女子 (阪 神 西 vs 丹 有)	10:00	U13男子紅白戦	10:00	(U13女子 vs U12女子県選抜)	10:00	(神 U18女子 戸 vs 東 播)
11:05	U12男子 阪 神 西 vs 西 播 磨						
12:10	U12女子 (淡 路 vs 西 播 磨)	11:40	U13男子 vs U12男子県選抜	11:40	(U13女子紅白戦)	11:40	西 U18男子 播 vs 但 馬
13:20	U12男子 淡 路 vs 但 馬	13:20	大学女子 (武庫川女子大学 vs 関西学院)	13:20	社会人女子 (地域リーグ選抜 vs オープン選抜)	13:20	(阪 U18女子 神 vs 淡 路)
U12第4試合終了後 お楽しみ抽選会							
14:25	U12 vs 姫路イーグレッツ 交流戦	15:00	大学男子 流通科学大学 vs 関西学院	15:00	社会人男子 地域リーグ選抜 vs オープン選抜	15:00	神 U18男子 戸 vs 丹 有
15:30	シューティングマシン体験会						



U18 男子 西播 vs 但馬



U18 男子 神戸 vs 丹有



U18 女子 阪神 vs 淡路



U12 男子 阪神西 vs 西播磨



U12 女子 淡路 vs 西播磨



U13 女子紅白戦



U18 女子 神戸 vs 東播



U12 男子 淡路 vs 但馬



U13 女子 vs U12 女子県選抜



U12 女子 阪神西 vs 丹有



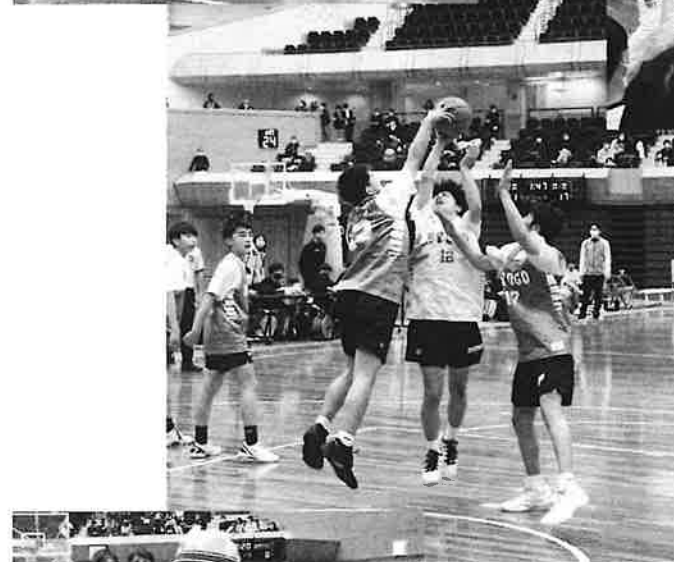
U13 男子 vs U12 男子県選抜



大学男子 流通科学大 vs 関西学院大



大学女子 武庫川女子大 vs 関西学院大



U13 女子紅白戦



フリースロー大会の入賞者



姫路イーグレッツによるU12女子クリニック



フリースロー大会の様子



姫路イーグレッツによるU12女子クリニック集合写真

第67回兵庫県高等学校総合体育大会バスケットボール競技 令和5年度兵庫県高等学校バスケットボール大会

男子報徳、決勝の激闘を制して5連覇！（※5大会連続5回目）
女子三田松聖、悲願の初優勝！（決勝初進出の宝塚西を破る）

令和5年5月13日（土）～6月11日（日）
ライフパートナーアリーナ（県立総合体育館）、王子スポーツセンター、各高校体育館



《総評》

令和5年度の県総体は、新型コロナウイルスが5類に移行したので、3年ぶりに観客を制限せずに開催された。また、インターハイ出場権が男女優勝チームに限られたので（昨年度までは男女2校ずつ）、決勝リーグや近畿出場決定リーグが廃止され、トーナメント方式となった。日程が一日減った分は、大会初日と二日目のダブル（一日2試合）を解消したことで、8日間の開催日程は変わらなかった。

男子は、16シードの市西宮が加古川東に76-72で競り勝ち、ベスト8入りを果たした。順々決勝では尼崎双星に第1Qで25-14とリードされながらも、試合終了間際に4点差まで詰め寄ったが、惜しくも敗れた。続く近畿大会出場決定戦でも第1Qに大幅リードを三田松聖に奪われ、市西宮は悔しくも近畿大会出場権を逃した。近畿大会に出場できる7校は、彩星工科（村野工業が校名変更）、市尼崎、三田松聖と準決勝進出チームとなった。男子決勝は県新人と同じ組合せとなり、試合終盤までもつれる大接戦を制した報徳が、5大会連続5回目の優勝を飾った。

女子は、ベスト8のシード校が順調に勝ち残った。近畿大会出場決定戦の結果、出場できる7校は園田、日ノ本、神港学園と準決勝進出チームとなり、ベスト8の神戸星城が涙をのんだ。第3シードの宝塚西は、準決勝で県総体4大会連続優勝していた市尼崎に対し、リバウンドで粘って要所で3Pシュートを決め、64-54で破って初の決勝進出を果たした。その決勝では、三田松聖の多彩な攻撃と高さを止められず敗れたが、普通科の公立高校としての健闘を称えたい。全国選手権（ウインターカップ）県予選で3連覇している三田松聖は、3大会連続準優勝だった県総体（インターハイ県予選）で悲願の初優勝を果たした。

男子

準決勝

報徳 94 [19-21・28-11] 49 三田松聖
25-11・22-6

育英 85 [22-12・21-22] 73 尼崎双星
19-23・23-16

3位決定戦

三田松聖 79 [18-18・18-12] 70 尼崎双星
23-21・20-19

決勝

報徳 84 [21-18・16-24] 74 育英
27-15・20-17

報徳										育英									
反則	自投	②	③	得点	No.	No.	山本	獅子	00	0	堀川	優太	得点	③	②	自投	反則	反則	自投
1	3	1	0	5	宮園	遼	2	3	竹本	龍二	24	5	2	5	3	0	0	0	0
—	—	—	—	—	富本	真脩	3	5	長田	祐聖	8	2	0	2	0	—	—	—	—
—	—	—	—	—	江岡	大登	5	6	山内	康生	6	0	3	0	0	—	—	—	—
0	5	9	2	29	森本	虎志	7	11	藤村	日向	2	0	1	0	3	—	—	—	—
0	1	1	2	9	森	脩平	8	15	竹内	英太	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	0	2	1	7	大澤	一輝	10	17	三井	太雅	6	1	1	1	4	—	—	—	—
1	2	2	1	9	星原	甲治	13	18	羽澤	要	7	0	2	3	4	—	—	—	—
—	—	—	—	—	久保	晴熙	15	22	馬場	瑠音	13	0	5	3	0	—	—	—	—
1	0	0	1	3	福本	有都	21	24	瀬川	莉功	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	0	0	0	0	松本	晃瑠	42	31	熊谷	壮真	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	上田	悠真	45	39	竹内	琉人	8	0	3	2	1	—	—	—	—
0	0	0	1	3	北村	優光	71	57	山川	英哲	0	0	0	0	2	—	—	—	—
1	0	1	0	2	美川	祐亮	74	60	山本	優斗	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	1	5	2	17	井藤	匠哉	97	69	川村	海誠	—	—	—	—	—	—	—	—	—

14 12 21 10 84

74 8 17 16 17



戦評

【第1Q】

お互いにマンツーマンディフェンスから始まった。開始1分、育英⑦三井の3Pシュートを皮切りに試合が動き出す。報徳は⑧森の3Pシュート、⑦井藤のドライブイン、ゴール下シュートを中心に

得点を重ねる。育英は途中③竹本が負傷により一時ベンチに下がる。得点力を欠いた育英は19-11とリードを許したところで前半1回目のタイムアウトをとる。その後、育英は③竹本と交代した⑤長田が3Pシュートを中心に得点して追いつけるが、21-18と報徳がリードして第1Q終了。



【第2Q】

開始2分30秒、得点がないまま試合は進む。育英⑧羽澤が得点を決めると、報徳は流れを渡すまいと前半1回目のタイムアウトをとる。しかし育英はディフェンスリバウンドから流れを作り、負傷から回復した③竹本が連続5点を決めるなど23-30とリードを奪う。残り5分、報徳が前半2回目のタイムアウトをとる。報徳はオールコートのゾーンプレスにディフェンスを変え、⑦森本と⑬星原のアウトサイドから得点を稼ぐ。育英は③竹本が変わらず攻め続け、37-42と育英の5点リードで前半終了。

【第3Q】

後半開始は報徳⑦井藤が3Pシュート、セットプレーからの得点で躍動し、5分間で報徳は12点を奪う。育英は⑨竹内がスクリーンプレーから得点を重ねるも失点が目立ち、残り5分同点となったところで育英は後半1回目のタイムアウトをとる。報徳は残りの5分間もディフェンスの手を緩めず、育英の得点を5点に抑えることに成功し、報徳は11得点と流れを引き寄せた。64-57と報徳が逆転し、7点リードで第3Q終了。

【第4Q】

開始4分、お互いに得点が伸びないまま試合が進む。報徳は後半1回目のタイムアウトをとりディフェンスをゾーンプレスにして変



化を見せる。しかし、リードを許した育英が粘り強いディフェンスと速い展開のバスケットで猛追をみせる。残り3分、育英③竹本、⑫馬場を中心とした猛攻に報徳⑦井藤が5ファウルとなり退場する。この時点で得点は71-70とわずか1点差となり、育英がペースを握るかと思われた。しかしここから報徳⑦森本が気迫あふれるプレーで残り3分間で12得点する活躍をみせる。対する育英は決め手を欠き、思うように得点することができない。育英はファウルゲームに持ち込むも報徳はフリースローをきちんと決め、84-74で報徳の優勝が決定した。



女子

準決勝

三田松聖 103 $\left[\begin{array}{c} 26 - 29 \cdot 28 - 24 \\ 19 - 20 \cdot 30 - 14 \end{array} \right]$ 87 神戸龍谷

宝塚西 64 $\left[\begin{array}{c} 15 - 5 \cdot 20 - 20 \\ 8 - 12 \cdot 21 - 17 \end{array} \right]$ 54 市尼崎

3位決定戦

神戸龍谷 72 $\left[\begin{array}{c} 15 - 22 \cdot 29 - 11 \\ 12 - 17 \cdot 16 - 17 \end{array} \right]$ 67 市尼崎

決勝

三田松聖 93 $\left[\begin{array}{c} 23 - 15 \cdot 23 - 15 \\ 29 - 13 \cdot 18 - 23 \end{array} \right]$ 66 宝塚西

三田松聖

宝塚西

反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則	
1	2	3	0	8	東	奈那	7	00	佐々木希新	3	0	1	1	2
1	2	4	0	10	崔	瑞陽	8	10	渡辺かれん	5	0	2	1	2
0	1	0	0	1	東中	梓	9	17	権野あぐり	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	竹内	愛	10	22	池田 心音	19	2	4	5	4
2	5	7	0	19	竹中	凜	13	23	神野 心優	11	0	5	1	1
0	0	0	0	0	黒田	希歩	14	30	神野 友梨	—	—	—	—	—
2	0	0	0	0	東	寧音	16	31	梅原 雪	—	—	—	—	—
2	0	10	1	23	渡部	陽美	17	32	入佐 珠帆	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	花房	濃都	30	35	仁科 有紀	3	0	1	1	3
0	0	0	0	0	四谷	花音	47	42	鎮守 紗寧	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	中村	その	55	46	高木理紗子	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	阿部	芽奈	56	55	山内唯杏花	19	5	2	0	3
2	0	3	0	6	白箸	空知	77	87	藤本 花	6	0	3	0	1
0	0	1	0	2	木下	楓	79	88	立花 優来	—	—	—	—	—
0	0	6	4	24	初谷	一葉	85	99	山本 千晴	0	0	0	0	0

10 10 34 5 93

66 7 18 9 16



戦評

両チーム初めてのインターハイ出場をかけて、4回目の決勝に臨む三田松聖と、初の決勝進出で勢いに乗る宝塚西の決勝戦。

【第1Q】

立ち上がり、両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンスでスタート。先制したのは宝塚西、キャプテン⑦藤本がドライブを決める。対する三田松聖は⑬竹中の高さを活かしたゴール下、アーリーオフenseから、⑤初谷の3Pシュートで決め返す。宝塚西はパス回しやカッティングでズレを作ってからドライブで⑩渡辺や⑤山内が決め、何とか食らい付いていくが、相手の高さに苦しみ、残り4分でチームファウルが溜まってしまう。三田松聖はファウルによって宝塚西のディフェンスの強度が下がったところを、⑪渡部が中外巧みにボールキープしてアシストを供給し、⑦東の連続得点などで21-11となった残り2分で宝塚西がタイムアウトをとる。タイムアウト明け、宝塚西は⑤仁科のフリースロー、②神野のバスケットカウントで追いつけるが、三田松聖は⑪渡部のドライブで23-15と8点リードで第1Q終了。

【第2Q】

立ち上がりは点の取り合いとなる。三田松聖は⑬竹中のフリースローやバスケットカウント、⑤初谷が3Pシュートを決めれば、宝塚西は昨日31得点の②池田の3Pシュートやフリースロー、⑩渡辺のゴール下やフリースローで応戦する。さらに三田松聖のチームファウルが溜まり、宝塚西が勢いづくと思われたが、ここでも三田松聖⑪渡部が落ち着いてパスを供給し、⑦東や⑬竹中がゴール下を決めきり、38-23と15点差になったところで、たまたま宝塚西は2つ目のタイムアウト。その後、宝塚西は②池田の3Pシュートや②神野のゴール下で粘り強く追いかけるが、三田松聖も⑪渡部が自ら連続シュートを決め、16点差リードで折り返す。

【第3Q】

後がない宝塚西は、ディフェンスを2-3ゾーンとマンツーマンのチェンジングで仕掛けに行くが、三田松聖は落ち着いてパスを回し、⑬竹中のゴール下、⑤初谷のドライブなどで逆に点差を広

げ、54-32の22点差になった残り6分で宝塚西がタイムアウト。何とか立て直しを図ろうとするが、三田松聖の勢いは止まらず、⑦白箸、⑪渡部のゴール下、⑤初谷のこの試合4本目の3Pシュートなどで怒涛の攻撃を見せる。宝塚西も⑤山内の2本の3Pシュートなど意地を見せるが、75-43と三田松聖が大量リードを奪って第3Qを終える。



【第4Q】

最終クォーターになって、も三田松聖の勢いは止まらず、メンバー交代をしながらも要所で⑦白箸、⑧崔などが確実に得点を重ねて、粘る宝塚西を振り切り、93-66の27点差で勝利し、初のインターハイ出場を決めた。

敗れはしたが、高さのある三田松聖に最後まで身体を張ったディフェンスで我慢強く戦った宝塚西の健闘が光った、見応えのある決勝戦であった。





キャプテンインタビュー

◆男子優勝
報徳学園高校
キャプテン⑧森 脩平さん



優勝を決めた今の気持ち

これまで、報徳は4連覇を果たしていました。昨年の先輩たちから受け継いだ、連覇の記録を更新したいという気持ちも含めて、絶対に負けられないという思いでコートに立ちました。チームメイト全員での応援は試合に出ているメンバーの力となり、今年度も優勝を果たすことができて本当に嬉しいです。

今日の試合に向けてチームでどんなことを話しましたか

自分たちが持っているエネルギーを全部出し切ろうと声を掛け合いました。観客席で応援している人も、ベンチにいる人も、試合に出るメンバーも全員が違う形であっても、持っている力を出し切ることが大事だと思っています。

決勝戦を振り返って

1点差になったり、点差が離れなかったりと苦しい展開があった

◆女子優勝
三田松聖高校
キャプテン⑤初谷 一葉さん



インターハイ出場を決めた今の気持ち

これまで、三田松聖はインターハイの出場を果たすことができませんでした。先輩たちの悔しかった気持ちの分も含めて、必ず優勝したいと考えていました。自分自身もかつて怪我をして、何度も仲間にも助けてもらったので、何とか結果を出せて本当に嬉しく思います。

この大会に向けてチームで話し合ってきたことは何ですか

プレーだけでなく、チーム全体が「ひとつになろう」と何度も話し合ってきました。そのためには一人一人の成長が不可欠でしたが、チームのみんながそれを心がけてくれたおかげで、チームの大きな成長へと繋がったと思います。

決勝戦を振り返って

味方が打ったシュートに対して、たとえそれが外れても何度もみ

中で、チームメイトが（7番の森本君が）バスケットカウントを決めてくれたからチームが波に乗った瞬間は、応援してくれているチームメイトも含めて報徳のエネルギーを最大限に出した瞬間だと思います。

キャプテンとして心掛けてきたことは何ですか

今までみんなでやってきたバスケットに自信を持ってプレーできるように、声を掛け続けました。たとえ苦しい展開になっても、「絶対に大丈夫だ、乗り越えられる！」とチームで気持ちを1つにし、インターハイ出場に向けて全力で取り組んできました。

チームの課題、今後の目標を教えてください

インターハイの目標はベスト8です。試合に出場するメンバーの一人ひとりの良さを最大限に試合で活かし、確実に点数を決めて勝利につなげていきたいです。そのために、それぞれの持つ武器をもっと磨き、インターハイベスト8の目標まで走り抜きたいです。

監督（コーチ）へのメッセージ

チームのために、体力・エネルギー全部を注いでくれているので、本当に感謝しています。

んなでリバウンドをとることができ、チームとしての繋がりを表現できたと思います。

キャプテンとして心がけてきたことは何ですか

誰かひとりが背負うということではなく、みんなで声を掛け合い、互いに意見を出し合えるようなチーム作りを心がけてきました。そして常に「インターハイ県予選優勝」というイメージを持ち、目標に対する強い気持ちを持ち続けてきました。

チームの課題、今後の目標を教えてください

プレーでは、細かいところまでこだわりをもって練習を重ねたいと思います。チームとしては、同じ学年同士の横の繋がりに加え、学年を超えた縦の繋がりをもっと磨き、チームとしての繋がりを強めていきます。インターハイの目標はベスト8です。

顧問（コーチ）へのメッセージ

全国大会のメインコートに、必ず立たせます！

男子

【男子最優秀選手】森 脩平（報徳⑧）

【男子優秀選手】森本 虎志（報徳⑦）

星原 甲治（報徳⑬）

竹本 龍二（育英③）

稲見 翔斗（三田松聖⑫）

村上 心清（尼崎双星⑥）

大道 琥哲（彩星工科④）

穂山 宗良（市尼崎⑨）

守岡 玄樹（神戸科技⑫）

吉原 朋生（市西宮⑯）

女子

【女子最優秀選手】初谷 一葉（三田松聖⑤）

【女子優秀選手】竹中 凜（三田松聖⑬）

渡部 陽美（三田松聖⑦）

藤本 花（宝塚西⑧）

島谷 芽依（神戸龍谷⑧）

魚住 帆香（市尼崎⑧）

川畑 董（日ノ本⑥）

大西 そら（園田④）

橋本 怜奈（神港学園④）

長井 夏帆（神戸星城⑬）

第70回近畿高等学校バスケットボール大会

女子・三田松聖 残り0秒の逆転勝ちでベスト4進出！

令和5年6月23日（金）～25日（日）

ジェイテクトアリーナ奈良（奈良県橿原市）・香芝市総合体育館（奈良県香芝市）

《総評》

令和5年度の近畿大会は、ジェイテクトアリーナ奈良と香芝市総合体育館を会場とし、6月23日からの三日間で開催された。

男子決勝は、昨年初の決勝進出を果たして今年こそはと意気込む阪南大（大阪）と、昨年は進めなかった決勝の常連校の東山（京都）の対戦となった。東山は安定した試合運びで快勝し、コロナで中止になった大会の一つ挟み、4年ぶりの優勝を飾った。

女子決勝は三年連続で京都精華学園（京都）と大阪薫英女学院（大阪）の対決となった。昨年末のウインターカップ全国制覇を下級生主体のチームで成し遂げ、圧倒的優位とみられた京都精華だったが、第1Qで勢いに乗った大阪薫英の精密で粘り強い奮闘に苦戦し、会場全体が歓声とどよめきに包まれる中、72-70で敗れた。大阪薫英はコロナで中止になった大会の一つ挟み、4年ぶりに女王の座を奪回し、歓喜に包まれた。

兵庫県勢男子は7チームが出場し、三田松聖、彩星工科、育英が1回戦を突破したが、2回戦で敗れた。特に育英は第3Qまで洛南（京都）相手に粘るも惜しくも敗れた。報徳は2回戦で粘る光泉カトリック（滋賀）を退けたが、準々決勝で大阪学院（大阪）に大接戦の末に72-70の2点差で惜しくも敗れ、最終日に残ることができなかった。

兵庫県勢女子は7チームが出場したものの、1回戦に勝ったのは三田松聖と日ノ本のみであった。2回戦で日ノ本は強豪校の大阪桐蔭に力負けを喫した。三田松聖は第4Q残り4分に京都両洋に追いつかれたものの逆転は許さず、3点差で逃げ切った。準々決勝でシード校の和歌山信愛（和歌山）と対戦した三田松聖は、後半に追いつかれても慌てずに自分たちのバスケットを展開し、残り12秒から両チームで9点入れ合う激しい攻防を制し、ブザービーターの逆転シュートで勝利をつかみ取った。準決勝では優勝した大阪薫英の前に力及ばず敗れた。

男子

1回戦

三田松聖 74 [9 - 14・17 - 17] 67 天理（奈良）

報徳学園 74 [12 - 15・14 - 8] 51 大塚（大阪）

鳥羽（京都） 77 [15 - 27・18 - 22] 74 尼崎双星

関西大第一（大阪） 86 [22 - 15・16 - 18] 70 神戸科技

育英 83 [17 - 16・22 - 7] 54 立命館守山（滋賀）

彩星工科 74 [18 - 12・28 - 10] 50 一条（奈良）

近大附属（大阪） 95 [22 - 15・23 - 13] 55 市立尼崎

2回戦

関西大学北陽（大阪） 75 [11 - 12・22 - 7] 50 三田松聖



報徳学園 62 [17 - 20・12 - 9] 50 光泉カトリック（滋賀）



阪南大学 95 [26-16・23-15] 69 彩星工科
(大阪) [24-21・22-17]



洛南 81 [24-17・14-25] 73 育英
(京都) [21-16・22-15]



準々決勝

大阪学院 72 [23-11・13-18] 70 報徳
(大阪) [20-19・16-22]

戦評

第1Q、両チームともマンツーマンディフェンスでスタートするも、報徳は大阪学院⑥太田にフェイスガード、大阪学院はプレスと互いにディフェンスから仕掛けていく。大阪学院は⑥太田のバックカットからのレイアップシュートや⑤道澤のミドルシュートで軽快に得点を重ねる。報徳もタイムアウトをはさみ⑦森本の速攻で食い下がるが、大阪学院の勢いは止まらず⑤道澤のダンクシュートでた

まらず2回目のタイムアウト。大阪学院が23-11とリードして第1Q終了。

第2Q、報徳は⑦井藤の3Pシュートや⑦森本のバスケットカウントで流れを引き寄せようとするも、大阪学院はディフェンスのプレッシャーを強めて簡単には譲らない。互いに堅いディフェンスで均衡が続く中、高さと勝る報徳が積極的なリバウンドから徐々に点差を縮める。大阪学院は⑥太田、報徳も⑦森本が得点をつなぐが、どちらも流れを掴みきれず36-29で前半終了。

第3Q、大阪学院は⑨池田のシュートで快調に滑り出すが、報徳が⑦森本を中心に⑦北村の巧みなドライブや②宮園の3Pシュートで一時逆転。報徳がペースを掴むかと思われたが、大阪学院も⑩水島ミドルシュートを皮切りに連続して得点し、最後は⑥太田のブザービーターのディープスリーで報徳を再度突き放し、56-48で第3Q終了。

第4Q、大阪学院が勢いそのままに⑨池田と⑥太田が連続得点し、すぐさま報徳がタイムアウト。立て直しを図るが、じりじりと点差を離され14点差で再度タイムアウト。ここから報徳が執念の追い上げをみせ、大阪学院⑥太田のレイアップシュートを報徳⑩大澤がブロック、そして速攻から⑦井藤のシュートで4点差とする。残り1分を切り、2点差まで詰め寄る報徳に対して苦しい大阪学院であったが、最後は逆転を狙った報徳の3Pシュートがリングに弾かれて試合が終了し、72-70と大阪学院が勝利した。

(奈良県高体連の戦評を改変しました)



女子

1回戦

草津東 77 [14-19・27-2] 45 宝塚西
(滋賀) [15-11・21-13]

弘文学園女子 95 [22-6・18-14] 45 神港学園
(大阪) [32-12・23-13]

日ノ本 71 [24-12・27-19] 64 田辺
(和歌山) [12-4・8-29]

奈良文化 67 [13-10・24-16] 61 神戸龍谷
(奈良) [9-20・21-15]

三田松聖 87 [24-12・19-12] 58 天理
(大阪) [28-10・16-24]

金光藤蔭 78 [21-19・16-11] 67 市立尼崎
(大阪) [25-14・16-23]

鳥羽 67 [16-5・17-17] 56 園田学園
(京都) [22-12・12-22]

2回戦

大阪桐蔭 102 [29-18・23-18] 60 日ノ本
(大阪) [29-9・21-15]



三田松聖 87 [24-12・19-12] 58 京都両洋
(大阪) [28-10・16-24]



準々決勝

三田松聖 72 [23-19・18-19] 71 和歌山信愛
(大阪) [14-18・17-15]

戦評

第1Q、両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンスで試合開始。三田松聖⑧崔の連続得点でゲームが始まる。信愛④早川がシュートを決めるも、⑧崔と⑦渡部のゴール下で三田松聖がリードする。中盤に信愛は④早川、⑦寺田、⑨山本の連続得点で応戦する。23-19三田松聖がリードして第1Q終了。

第2Q、信愛の⑨山本がレイアップを決めて始まる。三田松聖は⑨初谷の3Pシュートで突き放そうとするも、信愛は⑤小川のポストプレーや⑩山本のドライブで応戦する。中盤に信愛は⑥小川のポストプレーでこの試合初めてリードを奪う。その後も信愛は⑦寺田の3Pシュートや⑬岩倉のポストプレーで得点を重ねるが、三田松聖は⑨初谷を中心にリードを奪い返し、41-38と三田松聖リードで前半終了。

第3Qはとも一進一退の攻防が続き、信愛は⑩山本を中心に得点を重ねるも、三田松聖は⑧崔、⑦白箸のゴール下で応戦し、両者譲らないゲーム展開が続く。

第4Q、信愛は終始⑩山本を中心に得点を入れる。一方、三田松聖は⑬竹中、⑦渡部を中心に応戦する。残り3分、三田松聖⑨初谷がドライブを仕掛けてバスケットカウントをとり、66-66と同点となる。得点が入らないままゲームが進むが、残り42秒で三田松聖⑦渡部がシュートを決め、信愛がタイムアウトをとる。そして残り12秒で信愛⑨山本がドライブインでバスケットカウントを決め、68-69で信愛がリードし、今度は三田松聖がタイムアウト。すると三田松聖⑦渡部がドライブで再び得点を重ね、再び信愛がタイムアウト。残り3秒で信愛④早川がシュートを決め、さらに三田松聖がタイムアウト。三田松聖⑦東のシュートは外れたが、それを三田松聖⑧崔が拾ってゴール下でブザービートを決め、三田松聖が1点差の勝利を掴んだ。終始結果がわからないゲーム展開で会場全体が盛り上がる好試合であった。両チームの健闘を讃えたい。(奈良県高体連の戦評を改変しました)



準決勝

大阪薫英女学院 103 [27 — 8・29 — 13] 51 三田松聖
24 — 11・23 — 19

戦評

第1Q、両チームともディフェンスはマンツーマンでスタート。大阪薫英は⑤鳥袋のバスケットカウントで得点すると、三田松聖も⑯渡部のバスケットカウントで返す。大阪薫英は長身を活かし、オフェンスリバウンドから得点を重ね、ディフェンスでは激しくプレッシャーをかけ、三田松聖の得点を許さない。三田松聖は残り3分でタイムアウトをとるも、大阪薫英の勢いは止まらず27-8で第1Q終了。

第2Q、三田松聖は⑬竹中の長身を活かしたポストプレイ、⑤初谷のバスケットカウントなどで追いつこうとするも、大阪薫英は⑧松本の3Pシュート、ミドルシュートなどで応戦し、点差を縮めさせない。三田松聖は1-3-1ゾーンディフェンスで流れを変えようとするも、大阪薫英の確率の高いシュートが決まり、56-21で大阪薫英がリードし、前半終了。

第3Q、リズムを変えたい三田松聖は激しくディフェンスプレッシャーをかけ、⑦東のスティール、⑯渡部のリバウンドシュートなどで得点を重ねるも、大阪薫英も⑧松本の3Pシュートなどで得点をさらに増していく。残り3分、三田松聖はタイムアウトで悪い流れを切ろうとするが、80-32で大阪薫英がリードを広げ、第3Q終了。

第4Q、三田松聖はメンバーを変えながら応戦し、⑯木下のバスケットカウントなどで追撃するも、大阪薫英の激しいディフェンスの前になかなかリズムが掴めない。最後までゲームの主導権を握った大阪薫英が103-51で勝利した。最後まで粘り強く戦った三田松聖の健闘を讃え、インターハイでの活躍を期待したい。



第6回 兵庫県社会人O-40・O-50 バスケットボール選手権大会 兵庫県予選大会

(O-40男子) 信和シニアが6連覇！！

(O-40女子) 向井鍛工ハンマーズが初優勝！

(O-50男子) 向井鍛工ハンマーズが3連覇！！

令和5年
7月16日（日）
兵庫県立総合体育館

《総評》

第6回兵庫県社会人O-40・O-50バスケットボール選手権大会
兵庫県予選が大会の最終日が7月16日（日）におこなわれO-40男子は信和シニアが大会6連覇、O-40女子は向井鍛工ハンマーズが初優勝、O-50男子は向井鍛工ハンマーズが大会3連覇を飾った。各カテゴリーの上位チームは9月に兵庫県姫路市で行われる近畿ブロック大会への出場権を獲得した。

男子
O-40

決勝

信和シニア 107 [23 — 17・26 — 9] 56 G.G.DVLS.
28 — 19・30 — 11 KAREN

信和シニア										G.G.DVLS.KAREN									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則						
1	0	1	1	5	本田 剛	0	0	嶋田 英昭	2	0	1	0	0						
2	0	5	0	10	山本 圭介	5	1	井上 秀哲	6	0	3	0	2						
0	0	1	0	2	愛宕 宏文	6	2	藤原 亮	7	1	2	0	0						
0	0	4	1	11	城山 大樹	9	7	佐々木孝行	—	—	—	—	—						
1	0	0	1	3	若狭 英樹	10	8	東野 由嗣	0	0	0	0	0						
2	0	3	0	6	菊池 真	11	9	玉田 真也	8	2	1	0	2						
0	1	2	0	5	上田 敦	12	10	中尾 強志	0	0	0	0	0						
2	0	0	0	0	富永 大	14	11	磯部 康	2	0	0	2	0						
2	0	3	0	6	福島 潤	15	12	松本 吉則	3	1	0	0	0						
0	0	7	3	23	西村 大祐	20	13	橋本 浩一	11	0	5	1	0						
0	2	0	0	2	東平 宏章	22	14	大原 聖司	6	0	3	0	1						
0	0	2	2	10	岡崎 公尚	24	15	高島 洋平	—	—	—	—	—						
2	0	7	0	14	岩井 一紘	25	17	小川 建史	0	0	0	0	0						
0	0	0	0	0	宮田 守	27	56	長谷坂健祐	7	1	1	2	2						
1	2	2	0	6	黒田 康始	29	69	川島 大輔	0	0	0	0	0						
0	2	1	0	4	田谷 茂	80	81	藤原 大祐	4	0	2	0	2						
13 7 38 8 107										56 5 18 5 9									

戦評

決勝は第一シードで大会6連覇を目指す信和シニアと、準決勝で第二シードのDARUMAを破って初めて決勝に進出したG.G.DVLS.KARENとの対戦となった。

第1クォーター

信和シニア（以下、信和）は⑤山本、⑨城山、⑪菊池、⑳西村、㉔東平、G.G.DVLS.KAREN（以下、KAREN）は①井上、⑨玉田、⑭大原、㉞長谷坂、㉠藤原（大）でスタート。KAREN⑨玉田が3Pシュートを決め先制する。信和も⑳西村が3Pシュートを決め、更にブレイクも決まる。KARENは早いトランジションから⑭大原が得点、㉠藤原（大）のバックシュートで加点。信和はP&Rから⑪菊池、ブレイクから⑤山本が決めるもKARENは①井上、⑨玉田



が得点し譲らない。信和は交代した選手が活躍し終盤⑩本田の3Pシュートも決まり23-17と信和がリードしこのクォーターが終わった。

第2クォーター

KARENは相手のミスから㉞長谷坂が決め点差を詰める。すぐさま信和⑤山本がドライブを決め譲らない。KARENはインサイドの㉠藤原（大）にボールを集めるも、なかなか得点することができない。信和は⑪菊池のミドル、⑨城山のブレイクが決まり30-19と11点差となったところでKARENが前半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も信和ベースは変わらず㉠西村、⑨城山が活躍しリードを更に広げる。信和は第1クォーター同様に交代した選手が得点し更にリードを広げる。KARENは⑬橋本が孤軍奮闘の活躍を見せるも49-24と信和が一気に差を広げ前半が終了した。

第3クォーター

信和㉠西村が躍動しリードを広げる。KAREN①井上、⑭大原がシュートを決めるも信和⑨城山が決め主導権を渡さない。更に㉠西村のこのクォーター2本目の3Pシュート、⑤山本のブレイクも決まりリードを広げる。KARENは㉞長谷坂の3Pシュート、⑭大原が走り得点するも信和は㉠岡崎の連続3Pシュート、㉡岩井のブレイクなどで更にリードを広げる。KARENも②藤原（亮）、⑨玉田、⑫松本が決め意地を見せるも単発となる。信和はラストプレーで㉔上田が沈め77-45とリードを広げてこのクォーターを終了した。

第4クォーター

このクォーターも信和㉠西村の得点で始まる。KAREN⑬橋本が決めるも信和がディフェンスから⑪菊池が走り加点。KAREN②藤原（亮）がミドルシュートを決めるも、信和⑤山本がディフェンスから走り主導権を渡さない。KARENは②藤原が3Pシュートを決めるも信和⑨城山が連続得点し90-52となったところで後半1回目

のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も信和ペースは変わらず最終スコアは107－52。信和シニアが大会 6 連覇を圧勝で飾った。



0－50

決 勝

向井鍛工
ハンマーズ 69 [23－14・18－ 5] 50 Colors

向井鍛工ハンマーズ											Colors				
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則				
0	0	0	0	0	安川 研司	1 2	樋口 芳弘	—	—	—	—	17	10	28	1 69
4	0	2	0	4	茨木 耕司	5 4	藤原 章年	—	—	—	—	50	5	14	7 15
4	2	9	0	20	山田 敬治	9 7	山本 隆幸	3	0	1	1 0				
—	—	—	—	—	廣瀬 素久	10 10	橋本 哲朗	13	2	3	1 0				
0	0	0	0	0	安永 英治	12 12	川村 宗弘	2	0	1	0 3				
0	0	1	0	2	河野 靖彦	14 13	福永 研児	—	—	—	—				
4	2	8	1	21	物袋 幸雄	18 14	田代 大樹	7	0	3	1 3				
2	4	4	0	12	狩野 智彦	21 15	藤井 康輔	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	山口 文章	23 16	島原 幸邦	0	0	0	0 1				
0	0	0	0	0	西村 敦	24 17	山川 正高	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	川村 健治	28 26	笠岡 義和	—	—	—	—				
1	0	1	0	2	河野 真一	35 27	前田 浩光	10	1	3	1 3				
2	2	2	0	6	荒西 基泰	39 31	半田 健吾	8	2	1	1				
0	0	0	0	0	金本 豊	40 33	小野 貴伸	6	0	2	2 4				
0	0	1	0	2	長岡 清史	50 68	高松 一人	1	0	0	1 0				
—	—	—	—	—	向井 康裕	77									

戦評

0－50男子決勝は向井鍛工ハンマーズとColorsの 3 大会連続同じカードとなった。

第 1 クォーター

向井鍛工ハンマーズ（以下、向井）は⑤茨木、⑨山田、⑱物袋、⑳狩野、㉑金本、Colorsは⑩橋本、⑭田代、㉑前田、㉑半田、㉑小野でスタート。Colorsは立ち上がり⑩橋本の 3 Pシュートに続き㉑前田がシュートを決めリードする。㉑半田の 3 Pシュートも決まり差を広げる。向井は⑱物袋が得点するも厳しい立ち上がりとなる。Colorsはその後⑭田代、㉑前田が得点し 4－12となる。向井はディフェンスのプレッシャーをかけColorsのミスを誘う。向井はファールで得たフリースローを㉑狩野が確実に決めるも、Colors⑩橋本がミドルを決め主導権を譲らない。しかし、向井はここから反撃し、このクォーター 3 本のバスケットボールカウントを決め逆転、終盤⑱物袋の 3 Pシュートも決まり 23－14と向井がリードしこのクォーターが終了した。

第 2 クォーター

向井の勢いは止まらず⑨山田、⑭河野が得点しリードを広げる。

Colorsは単調な攻めに終始しなかなか得点できない。向井はベンチメンバーに交代しながらも得点するが、Colorsは得点できずタイムアウトを取り修正を図り、ようやくファールで得たフリースローで得点する。向井はファールが高みColorsベースになるところでタイムアウトを取り、主力に交代し主導権を引き戻した。流れは一気に向井ペースとなり㉑狩野、⑨山田が連続して得点したところでColorsが堪らず前半 2 回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も向井は⑨山田が躍動し更にリードを広げ 41－19と一気に差を広げ前半を終了した。

第 3 クォーター

Colorsはインサイドの㉑前田がファールを貰いフリースローで得点する。Colorsは⑩橋本が孤軍奮闘の活躍を見せ点差を詰める。向井はタイムシェアをし、主力を温存しながらもColorsの猛攻を凌ぎ、46－31と少し差が縮まりこのクォーターが終了した。

第 4 クォーター

向井㉑狩野が見事なフェイダウェイシュートを決めリードを広げる。⑨山田も同じ位置から技ありのシュートを沈める。後のないColorsは前からディフェンスするなど仕掛けるがミスから走られ㉑荒西にブレイクを決められてしまう。Colorsはタイムアウトを取り立て直しを図るも、向井の激しいディフェンスの前にミスを犯してしまう。共に激しいディフェンスから走り好ゲームとなるが向井⑨山田のシュートが決まったところでColorsが堪らず後半 2 回目のタイムアウトを取った。タイムアウト後、お互いにファールでボーナスショットを与えてしまう。Colorsはマイボールで後半 3 回目のタイムアウトを取り、セットプレーから㉑前田が 3 Pシュートを決め意地を見せるも、向井は⑨山田が連続得点するなどリードを守り、69－50と19点差を付け大会 3 連覇を飾った。



女 子

0－40

決 勝

向井鍛工
ハンマーズ 58 [16－12・20－ 9] 48 三木CLUB

向井鍛工ハンマーズ											三木CLUB				
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則				
1	1	3	2	13	大津 智美	2 4	藤井 真紀	—	—	—	—	14	5	16	7 58
4	2	3	0	8	弓山千亜紀	7 5	二星 弘美	5	0	2	1 4	48	2	19	4 15
0	0	0	2	6	野村さつき	8 7	坪井 純子	0	0	0	0 0				
—	—	—	—	—	横江 沙織	10 14	澤津橋みずえ	3	1	0	0 0				
—	—	—	—	—	廣瀬真希子	11 15	辻口 周子	13	0	6	1 4				
2	2	1	1	7	後藤 容子	14 17	河合 恵美	0	0	0	0 3				
2	0	1	0	2	大谷美也子	15 19	小林 実幸	3	1	0	0 3				
0	0	4	0	8	樽井 純子	16 20	大谷 真紀	8	0	4	0 0				
0	0	0	1	3	斧田 亮子	17 22	養老 千穂	0	0	0	0 1				
3	0	2	0	4	北川 弥生	21 25	馬場 敦子	16	0	7	2 0				
2	0	2	1	7	喜田 純子	28 27	岡本登紀子	—	—	—	—				

戦評

0－40女子は 3 チームで争われ最終ゲームは初出場初優勝を狙う向井鍛工ハンマーズと連覇を狙う三木CLUBとの対戦となった。

第 1 クォーター

向井鍛工ハンマーズ（以下、向井）は②大津、⑦弓山、⑧野村、⑫北川、㉑喜田、三木CLUB（以下、三木）は⑤二星⑬辻口⑭小林⑳大谷㉑馬場でスタート。共にマンツーマンで始まる。三木㉑大谷のミドルシュートが決まり先制。向井は㉑喜田が決める。三木㉑馬場のミドルが決まりリードする。向井は⑧野村の 3 Pシュート、⑫北川がリバウンドから得点、三木は⑤二星がミドルを決める。向井は⑦弓山を起点にパスを展開しオフェンスを構築する。②大津のドライブが決まりリードする。三木はポストを守られなかなか起点が作れず苦しむも⑬辻口のムーブにパスが入り加点する。向井は⑫北川のバスケットボールカウントが決まりリードするも、三木も⑬辻口がブレイクを走り譲らない。終盤、向井⑰斧田の 3 Pシュートが決まり 16－12と向井リードでこのクォーターが終了した。

第 2 クォーター

向井はディフェンスの強度を高め三木のオフェンスが全く機能しなくなる。向井㉑喜田の 3 Pシュートが決まり 21－12と点差が広がったところで三木が堪らず前半 1 回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も向井は強度の強いディフェンスを継続し三木にゴールを許さない。向井は⑭後藤、②大津が決め完全に向井ペースとなる。三木は⑭澤津橋が 3 Pシュートを決めようやくこのクォーターの初得点を挙げる。向井はターンオーバーを犯したところで前半 1 回目のタイムアウトを取った。タイムアウト後も向井ペースは変わらず⑦弓山が決めリードを広げる。終盤、向井⑧野村、⑭後藤の 3 Pシュートが連続して決まり 36－21と向井が一気にリードを広げて前半が終了した。

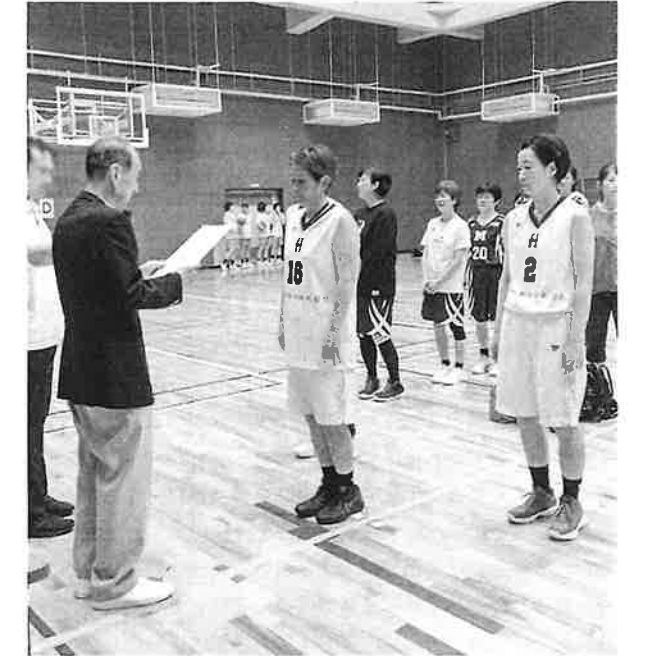
第 3 クォーター

三木㉑馬場のミドルが連続で決まり点差を詰める。更にディフェンスから㉑馬場が決める。後のない三木はディフェンスを頑張り向井に得点を許さない。点差を詰めたい三木は⑤二星がバスケットボールカウントを決めボーナスショットも決める。向井はすぐさま

⑬大谷が決め主導権を渡さない。三木はオフェンスがターンオーバーとなったところで後半 1 回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、向井はインサイドにボールを集め⑦弓山が連続し得点する。三木は⑬辻口、㉑大谷が連続し得点し詰める。更に㉑馬場がバスケットボールカウントを沈め、ボーナスショットも決め 44－37と 7 点差となる。向井は⑭後藤がファールで得たフリースローを 1 本決めるも三木⑬辻口がドライブを沈め 45－39と 5 点差としてこのクォーターが終了した。

第 4 クォーター

共にシュートが決まらない時間が続くが、向井⑭樽井がミドルシュートを決め点差を広げる。三木は後半 2 回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後も両チーム共にシュートは放つものの決めきれず我慢の時間が続く。三木は㉑大谷が連続してシュート決め点差を詰める。向井㉑喜田がドライブから難しいシュートを決め譲らない。三木⑬辻口がディフェンスからブレイクで得点し点差を詰めるも、向井⑫北川、⑭樽井が決めリードを広げる。三木⑨小林が 3 Pシュートを決めるも万事休す。向井が 58－48と10点差でこの試合を制した。共に近畿大会での活躍を期待したい。



令和5年度全国高等学校総合体育大会
バスケットボール競技大会（インターハイ2023）

兵庫勢躍進の夏！ 男子・報徳が全国ベスト8、女子・三田松聖は全国ベスト16

令和5年7月24日(月)～7月30日(日) 北海きたえーる・北ガスアリーナ札幌46・札幌市白石区体育館

《総評》

令和5年度の全国高校総体（インターハイ）は、7月24日（月）から7月30日（日）にかけて北海道札幌市内の各体育館で開催された。

男子決勝の組合せは、準決勝で昨年末のウインターカップ優勝の開志国際（新潟）を破った日本航空（山梨）と、昨年のインターハイ優勝の福岡第一（福岡）を破った東山（京都）の対戦となった。試合は東山が先行したが、第2Q終盤に日本航空が逆転し、76－60で日本航空が初優勝を飾った。日本航空のオルワベルミ・ジェラマイアは3Pシュート3本を含む30得点、21リバウンドと決勝の大舞台でも躍動した。

女子決勝の組合せは、準決勝で大阪薫英女学院（大阪）を破った桜花学園（愛知）と、札幌山の手（北海道）を破った京都精華学園（京都）の対戦となり、昨年のインターハイ3回戦の再現となった。試合は京都精華学園が一度もリードを譲ることなく88－65で快勝し、昨年のインターハイ、ウインターカップとあわせて3大会連続の全国優勝を遂げた（ただし、6月の近畿大会決勝では大阪薫英女学院に3点差で敗れている）。堀内桜花や八木悠香ら、下級生のときから主力を務める3年生がその力を存分に発揮した。

兵庫県勢は、男子は報徳が1回戦で実践学園（東京2位）を前半の2点ビハインドから後半に逆転して74－61で勝利した。2回戦では第4シードで長身留学生のいる福島東稜（福島、東北大会1位）に対し、第2Qで奪ったリードで試合を優位にすすめて67－59で快勝した。3回戦では岡山商科大学附属に71－54で勝利し、ベスト8入りを決めた。そして準々決勝では後に優勝した日本航空に79－60と敗れたが、2019年の全国ベスト4以来の躍進を果たした。

女子は初出場の三田松聖が1回戦で、就実（広島）に81－74の逆転勝利を収め、念願の全国大会初勝利を挙げた。全国選手権（ウインターカップ）は3年連続で初戦敗退していた。さらには2回戦で聖カタリナ学園（愛媛、四国1位）に対し、ずっと追いかける展開だったが第4Q終盤に追いつき、残り0.1秒のフリースローを1本決めて80－79で劇的な勝利を収め、全国ベスト16入りを決めた。3回戦は聖和学園（宮城）に98－74で敗れた。

男子

1回戦

報徳学園 74 [12－14・15－15] 61 実践学園（東京）



2回戦

報徳学園 67 [16－16・26－7] 59 福島東稜

報徳学園										福島東稜									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則		No.	No.	得点	③野	②野	自投
3	0	1	1	5	宮菌 遼	2	0	加藤 旭陽	9	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	富本 真脩	3	3	小倉 志龍	11	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	江岡 大登	5	6	皆川 智哉	7	0	3	1	2	0	0	0	0	0	0
3	3	4	1	14	森本 虎志	7	7	中田 直希	8	0	4	0	3	5	1	0	1	4	0
1	1	0	1	4	森 脩平	8	10	蛭川 翔空	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0
1	1	4	2	15	大澤 一輝	10	12	青野 拓夢	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2	1	1	0	3	星原 甲治	13	13	佐藤 獅恩	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
1	2	1	1	7	福本 有都	21	17	齋藤 アリゼ陽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	3	2	12	北村 優光	71	18	郡司 堅	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	2	美川 祐亮	74	23	岩本 隼祐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	松本 晃瑠	91	35	アノハネコリンス	21	0	9	3	4	0	0	0	0	0	0
2	1	2	0	5	井藤 匠哉	97	99	モモ コリンス	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0
17	9	17	8	67										59	1	24	8	18	



3回戦

報徳学園 71 [17－16・17－25] 54 岡山商科大学附属

報徳学園										岡山商科大学附属									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則		No.	No.	得点	③野	②野	自投
0	0	0	1	3	宮菌 遼	2	4	山岸 歩夢	7	1	1	2	4	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	富本 真脩	3	5	宮谷 浩司	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	江岡 大登	5	6	佐々木 翔	8	0	3	2	0	1	5	12	1	32	0
1	5	12	1	32	森本 虎志	7	7	佐藤 颯	16	4	2	0	1	1	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	森 脩平	8	8	大塚 祐矢	2	0	1	0	1	3	0	3	0	6	0
3	0	3	0	6	大澤 一輝	10	9	片岡 裕基	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	星原 甲治	13	10	田村 優二	12	2	3	0	3	1	2	0	1	5	0
1	2	0	1	5	福本 有都	21	11	岡安 玲夢	6	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0
1	0	3	0	6	北村 優光	71	12	森川 光誠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	美川 祐亮	74	13	杉田 将基	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	松本 晃瑠	91	14	野嶋 風牙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	3	8	0	19	井藤 匠哉	97	15	水戸 陽大	0	0	0	0	0	12	10	26	3	71	
														54	7	13	7	13	



戦評

第1Q、互いにハーフマンツーマンで始まり、報徳は⑩大澤のインサイド、⑦森本のドライブで先行する。その後も高さに勝る報徳はインサイドにボールを集め⑩大澤、⑨井藤が着実に得点を重ねリードする。対する岡山商大は⑩田村の3Pシュートなどで得点し、ディフェンスでもプレッシャーを強め報徳のインサイドを抑え、16－17岡山商大リードで第1Q終了する。

第2Q、報徳は⑦北村のジャンプシュート、相手のパスミスから速攻でリードするも、岡山商大⑦佐藤の3Pシュートが2本連続で決まり逆転を許す。報徳⑨井藤がドライブバスケットカウント、ローポストと得点し、さらに⑦森本のファストブレイクからのレイアップで残り5分27－24とリードする。岡山商大はオフェンスリバウンドを粘り得点を返すも、報徳⑦森本が1on1で連続得点し、ディフェンスのプレッシャーを強め岡山商大のミスを誘い、残り1分38－32報徳リードで岡山商大がタイムアウト。その後も報徳は②宮菌の3Pシュートが決まり、41－34報徳リードで前半を終了する。

第3Q、報徳はデフェンスを変化させ、岡山商大のシュートミスから⑦森本が速攻などで得点を重ね、残り6分47－37とリードを広

げる。互いに粘り強いデフェンスから得点を許さない展開が続いたものの、やがて報徳はファウルがかさみ、運びのミスから速攻で得点を奪われ、たまたま残り2分49－44でタイムアウト。報徳はファウルトラブルで交代していた⑦森本を投入し、すぐさま得点、その後は互いにシュートはリングに嫌われ、51－44と報徳リードで第3Q終了。

第4Q、報徳のデフェンスが機能して岡山商大のミスを誘発させるも、得点には結びつかず膠着状態が続く。残り6分②福本の3Pシュート、⑩大澤のインサイドでの得点で残り5分58－46で岡山商大がタイムアウト。岡山商大はディフェンスを強めるも、報徳は⑦森本の速攻や⑨井藤のゴール下での得点で、残り3分66－46報徳リードで岡山商大はタイムアウト。その後岡山商大はボールへのプレッシャーを強めシュートテンポを上げるも、71－54で報徳はベスト8へ進出する。



準々決勝

日本航空 79 [29－15・19－15] 60 報徳学園

日本航空										報徳学園									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則		No.	No.	得点	③野	②野	自投
0	0	6	0	12	藤野 仁喜	1	2	宮菌 遼	3	1	0	0	2	1	0	3	0	6	0
1	0	3	0	6	青木 王哉	7	3	富本 真脩	2	0	1	0	0	2	0	4	福岡 恭輔	9	5
2	0	2	0	4	福岡 恭輔	9	5	江岡 大登	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	山崎 柊威	10	7	森本 虎志	9	0	4	1	1	0	0	0	0	0	0
1	6	9	0	24	初ノベルジェライア	7	23	8	森 脩平	0	0	0	0	0	0	5	1	13	0
0	0	5	1	13	大道 一步	30	10	大澤 一輝	10	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	大矢 颯太	33	13	星原 甲治	0	0	0	0	1	2	0	1	4	14	0
2	0	1	4	14	中西 哲太	58	21	福本 有都	8	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	酒井 基充	66	71	北村 優光	7	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	林 天創	70	74	美川 祐亮	2	0	1	0	1	0	4	0	0	4	0
0	4	0	0	4	須崎 優斗	87	91	松本 晃瑠	2	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0
0	0	1	0	2	フィリップスデル	99	97	井藤 匠哉	15	1	6	0	4	7	10	27	5	79	
														60	6	20	2	11	

戦評

第1Q、報徳はキャプテン⑧森のフックシュート、⑬星原の3Pシュート、⑦森本のジャンプシュートなどで得点するも、日本航空は②ジェラマイアがインサイドで、さらに①藤野がジャンプシュートを決めるなどしてリードする。報徳は②福本が左コーナーから3Pシュートを決め点差を詰めるが、日本航空は⑨中西哲太が3P

シュートを連発。29－15日本航空リードで第1Qを終了する。

第2Qに入り、報徳は②福本の3点プレー、⑦美川の3Pシュート、⑦井藤のインサイドで得点するも、日本航空は③ジェラマイアのダンク、③⑩大道のレイアップなど2Pシュートを確率よく決めていき、48－30日本航空リードで前半を終了する。

第3Q、報徳は日本航空③ジェラマイアに対してダブルチームを仕掛けるも、ターンオーバーはなかなか引き出せない。日本航空は①藤野、⑦青木らが追加点を奪い、残り6分③ジェラマイアがインサイドで決めて57－36とリードする。報徳はオープンショットを放つもリムに嫌われ、残り6分から2点しか奪えず、67－38日本航空リードで第3Qを終えた。

第4Q、報徳は⑩大澤、②福本のシュートで得点し、ディフェンスのプレッシャーを強め、②宮園、⑦井藤が3Pシュートを決めるなど点差を縮めたものの、ベスト4進出はならなかった。

女子

1回戦

三田松聖 81 [19－27・22－14] 74 就実 (岡山)



2回戦

三田松聖 80 [16－19・18－18] 79 聖カトリナ学園 (愛媛)

三田松聖 聖カトリナ学園

反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則
1	1	2	0	5	東 奈那	7 4	岩佐 妃花	20	3	5	1
2	2	8	0	18	崔 璃陽	8 5	植田 るな	20	2	6	2
0	0	0	0	0	東中 梓	9 6	岩田 佳奈	12	0	6	0
1	1	0	0	1	竹内 愛	10 7	平 玲奈	5	1	1	0
3	3	5	0	13	竹中 凜	13 8	金光 由蘭	14	2	4	0
0	0	0	3	9	東 寧音	16 9	黒川 唯愛	2	0	1	0
4	4	9	0	22	渡部 陽美	17 10	尾崎 希星	0	0	0	0
0	0	0	0	0	花房 凜都	30 11	宮 星凜	0	0	0	0
0	0	0	0	0	阿部 芽奈	56 12	権藤 乃愛	6	0	3	0
2	2	1	0	4	白箸 空知	77 13	村上花穂子	0	0	0	0
2	2	0	0	2	木下 楓	79 14	豊島 琉瑠	0	0	0	0
1	1	1	1	6	初谷 一葉	85 15	平岡くらら	0	0	0	0

16 16 26 4 80 79 8 26 3 21



戦評

第1Q、両者マンツーマンディフェンスで試合開始。三田松聖は⑬竹中凜と⑧崔らがインサイドで得点し、カタリナは④岩佐がドライブで切り込んで応戦する。残り3分、11－11の同点でカタリナがタイムアウトを取り、オールコートのプレスディフェンスを仕掛ける。流れは一気にカタリナに傾き、速攻で得点を重ねる。三田松聖は⑦東のドライブや⑤初谷のブザービートのターンシュートで返すも、第1Qは16－19カタリナのリードで終了。

第2Q、カタリナは④岩佐と⑦平の3Pシュートで突き放そうとするが、三田松聖は⑩東の3Pシュートや⑦渡部の1on1で食らいつく。両チームともシュートがリングに弾かれ苦しい時間帯が続く中、三田松聖は⑨木下を交代で入れて積極的にディフェンスで仕掛け、⑬竹中凜や⑨木下のフリースローで得点をつなぐ。何度か点差を6点に広げられながらも、前半終了間際に三田松聖⑧崔がバスケットカウントのワンスローも決め、34－37カタリナのリードは3点と変わらず後半へ。

第3Q、三田松聖は1－1－3ゾーンディフェンスに変化する(すぐにマンツーマンに戻る)。⑦渡部の1on1と速攻で残り8分で40－40とようやく同点に追いつく。カタリナは⑧金光がミドルシュートや3Pシュートで応戦すると、三田松聖は⑬竹中凜と⑧崔がゴール下で奮闘し、残り6分で再び47－47の同点に。ここから三田松聖は思うように得点が伸びないが、カタリナ④岩佐が3Pシュートを

決めればすぐに三田松聖⑩東が3Pシュートを返し、カタリナ⑤植田が3Pシュートを決めればすぐに三田松聖⑩東が3Pシュートを再び返す。57－61カタリナのリードで最終Qへ。

第4Q、カタリナは⑤植田らがドライブで得点を量産していく。一方の三田松聖は⑦白箸のゴール下やフリースロー、⑤初谷の3Pシュート、⑦渡部の1on1で引き離されないように粘る。残り4分、68－73で三田松聖はタイムアウトを取り、ディフェンスを1－1－3ゾーンに変える。そしてセットプレイから⑬竹中のゴール下、⑦渡部の速攻が決まり、72－73の1点差とする。その後3分間お互いに2本ずつ決めて、残り27秒、三田松聖⑦渡部が1on1からバスケットカウントとフリースローを決めきり、79－77と第1Q以来のリードを三田松聖が奪う。ところが残り5秒、カタリナ④岩佐がドライブを決め、79－79の同点に。三田松聖はタイムアウト後、⑦渡部が1on1を仕掛けて残り0.1秒でフリースローを得る。⑦渡部は2本目を決めて、三田松聖が80－79で劇的な逆転勝利を飾った。

終わってみれば、三田松聖のインサイドへのアタックに対し、カタリナのファウルがかさんだ試合だった。スタメン5人でファウル19個、三田松聖に与えたフリースローは26本(16得点)。逆にカタリナのフリースローは3本(3得点)だった。2点、3点のシュート率ではカタリナが上回っていたが、三田松聖がゲームの流れをコントロールし、わずかに1点の勝利をもぎ取った試合となった。

3回戦

聖和学園 (宮城) 98 [23－21・29－19] 74 三田松聖

聖和学園

三田松聖

反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則
3	4	5	0	14	高瀬ゆのか	4 7	東 奈那	2	0	0	2
1	0	3	3	15	細川 真緒	5 8	崔 璃陽	11	0	5	1
1	0	0	1	3	上野 加弥	6 9	東中 梓	0	0	0	0
0	0	0	0	0	佐藤 琴美	7 10	竹内 愛	0	0	0	0
1	2	7	0	16	内田 理香	8 13	竹中 凜	10	0	3	4
1	2	12	0	26	阿部 友愛	9 16	東 寧音	9	3	0	0
0	0	1	0	2	大日向 叶	10 17	渡部 陽美	16	0	8	0
0	0	1	0	2	武田莉々果	11 30	花房 凜都	3	1	0	0
0	0	3	1	9	竹本 歩生	12 56	阿部 芽奈	0	0	0	0
1	0	4	1	11	齋藤 凌花	13 77	白箸 空知	8	0	3	2
0	0	0	0	0	渡邊 千衣	14 79	木下 楓	4	0	1	2
2	0	0	0	0	村形 智珂	15 85	初谷 一葉	11	2	2	1

10 8 36 6 98 74 6 22 12 16

戦評

第1Q、両者マンツーマンディフェンスで試合開始。聖和は個人技が優れる⑤細川の2本の3Pシュートや④高瀬のバスケットカウントワンスローなどで先行する。残り4分、7－19とリードされて三田松聖がタイムアウト。⑤初谷のゴール下へのパスから⑦白箸が決めて追撃開始。交代で入った⑨木下が激しいディフェンスで流れを変え、⑧崔の合わせやリバウンドからのゴール下シュートなどで23－21と2点差まで詰める。

第2Q、⑦渡部のドライブと⑩東の3Pシュートで三田松聖が25－26と逆転。聖和も対抗するが、再び⑦渡部のドライブと⑩東の3Pシュート、⑧崔のゴール下で残り6分で30－33と三田松聖がリードを守る。しかし、聖和はディフェンスを激しい1－2－2プレスからの3－2ゾーンに変え、④高瀬らが次々に得点を奪う。残り5分38－33聖和再びリードとなったところで、たまたま三田松聖がタイムアウト。三田松聖は⑤初谷が3Pシュートを決めるものの

流れは覆せず、52－40聖和リードで前半終了。

第3Q、聖和はゾーンプレスを継続。三田松聖も残り7分から1－1－3のゾーンディフェンスを仕掛ける。その直後に⑩東が3Pシュートを決め、すぐにマンツーマンにディフェンスを戻すが、なぜかオフェンスのリズムが悪くなり、約6分間、得点が⑦白箸のフリースローの2点のみとなる。一方の聖和は⑨阿部が正確なミドルシュートを連発し、このクォーターだけで13得点を挙げて、三田松聖を突き放す。残り1分を切つてようやく三田松聖⑧崔と⑬竹中凜がゴール下で得点するが、80－55と聖和が大量リードを奪い、最終Qへ。

第4Q、聖和はゾーンプレスを継続、三田松聖は1－1－3ゾーン。三田松聖は⑦渡部が多彩な得点パターンで3連続決めて追撃を図るが、残り6分から約5分間ノーゴール。残り3分で三田松聖はタイムアウトを取ってマンツーマンに戻すと、⑤初谷がドライブでバスケットカウントワンスロー、そして3Pシュートと一矢報いる。残り0分、交代で入ってきた三田松聖⑨木下がドライブ、⑩花房が3Pシュートを決めるが、98－74で聖和が勝利して準々決勝に駒を進めた。



少年男子、少年女子ともに準優勝で、
本大会出場へ

特別国民体育大会
第78回冬季国民スポーツ大会
近畿ブロック大会バスケットボール競技

令和5年8月12日(土)～13日(日)
グリーンアリーナ神戸

《総評》

従来の国民体育大会いわゆる「国体」ではなく、今回から「国民スポーツ大会」に大会の名称が変更された。その国民スポーツ大会「燃ゆる感動 かごしま国体」の予選となる近畿ブロック大会バスケットボール競技は、令和5年8月12日からの2日間に、神戸グリーンアリーナで開催された。

令和元年度の大会から少年種別がU-16となり、選手資格は早生まれの高校2年生、高校1年生、中学3年生となった。今回、兵庫県の少年男子・女子ともにベンチ入りしたのは全員高校生だった。なお、本大会への出場枠は、成年が男女とも2枠、少年が男女とも3枠となった。(昨年度は少年も2枠)。

兵庫県は成年女子が初日の予選リーグで2敗し、翌日の準決勝に進めなかった。成年男子は予選リーグを2勝して準決勝に進んだが、京都府に惜しくも4点差で敗れ、3位決定戦も同じく4点差で滋賀県に敗れた。なお、優勝したのは、成年女子が滋賀県、成年男子が大阪府であった。

少年女子は予選リーグで1勝1敗だったが準決勝で強豪である大阪薫英女子が主体の大阪府に見事勝利し、決勝に進出した。決勝ではインターハイ全国優勝を果たした京都精華が主体の京都府に敗れ、準優勝となった。少年男子は予選リーグで2勝、準決勝で大阪府に勝ち、決勝で京都府に惜しくも敗れて準優勝となった。

なお、戦評は各カテゴリー1試合ずつを掲載するが、決勝進出チームは決勝を加えた。

成年男子

予選リーグ

兵庫県 74 [20-19・18-14] 65 奈良県
17-12・19-20



令和5年8月12日(土)～13日(日)
グリーンアリーナ神戸

兵庫県 82 [23-20・20-20] 66 和歌山県
23-20・16-6

準決勝

京都府 69 [16-15・17-16] 65 兵庫県
17-20・19-14

京都府										兵庫県									
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.		得点	③野	②野	自投	反則						
1	3	1	2	11	河合	祥樹	4	4	酒居	奎太	3	1	0	0	1				
1	3	4	3	20	藤原	隼我	5	5	保花	広樹	4	0	1	2	3				
—	—	—	—	—	島倉	欧佑	6	6	山本	真弥	9	0	4	1	4				
—	—	—	—	—	松野	圭恭	7	7	前田	一帆	14	4	1	0	2				
0	0	0	2	6	伊藤	諄哉	8	8	古谷	太一	15	3	3	0	4				
1	2	0	0	2	福田	侑介	9	9	小島	基嵩	6	1	0	3	2				
2	2	1	1	7	齋藤	蓮人	10	10	大杉	陸翔	5	0	2	1	2				
3	2	2	0	6	藤田	兼士朗	11	11	松岡	太陽	2	0	1	0	1				
1	2	0	0	2	宮脇	隼人	12	12	志水	祐太	—	—	—	—	—				
4	4	2	1	11	谷口	達朗	13	13	大町	堯舜	2	0	0	2	1				
5	2	1	0	4	寺部	亮佑	14	14	堀本	侑汰	0	0	0	0	0				
							12	15	島原	拓己	5	1	0	2	4				
18 20 11 9 69										65 10 12 11 24									

戦評

【第1Q】

京都はトスアップから④河合、⑭寺部が得点するも兵庫のマンツーマンディフェンスにミスが続く。一方、兵庫は京都のハーフコートゾーンディフェンスに対し⑧前田を中心に3Pシュートを打つも決めきれない。残り5分7-7の同点から、京都は⑧伊藤、④河合の3Pシュートで得点し、兵庫はゾーンの内側へボールを集め⑪松岡、⑩大杉、⑥山本が得点する。16-15京都リードで第1Qを終了する。

【第2Q】

京都は速攻から⑪藤田のレイアップ、⑬谷口の3Pシュートのバスケットカウントワンスローの4点プレーなどで得点し、残り8分で22-16となる。互いに激しい接触から京都のアンスポーツマンライクファウルとなり、ここから兵庫は⑧古谷が3Pシュートなどで得点して逆転し、残り6分22-23で京都がタイムアウト。この後、一進一退の攻防が続き33-31京都リードで前半を終了する。

【第3Q】

後半に入り互いのディフェンスが機能し、互いにシュートを決めきれないまま残り6分で38-33京都リード。ここから京都は⑤藤原が1on1で得点を重ね、残り3分で47-39とするも、兵庫も⑦前田が3Pシュートを決め、チームでオフェンスリバウンドを頑張り、⑧古谷の3Pシュートで50-51と再び逆転し、第3Qを終了する。

【第4Q】

京都⑩齋藤が3Pシュートを決めると、兵庫④酒居が3Pシュートを決め返し、その後も激しい攻防の中、残り6分で57-57の同点

となる。京都はマッチアップゾーンから速攻で得点し、残り4分で65-57とリードする。兵庫は⑥山本のオフェンスリバウンドや⑨小島、⑦前田の3Pシュートで粘りを見せるも、69-65で京都が勝利を収めた。

3位決定戦

滋賀県 81 [11-23・29-16] 77 兵庫県
22-22・19-16



少年男子

予選リーグ

兵庫県 100 [35-16・16-21] 75 滋賀県
21-28・28-10



兵庫県 101 [25-16・25-12] 59 和歌山県
23-16・28-15



準決勝

兵庫県 95 [25-23・23-11] 77 大阪府
27-15・20-28

兵庫県										大阪府									
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則				
0	11	7	2	31	福本	有都	4	4	米田	翔	15	3	3	0	2				
2	2	4	0	10	大坪	蒼哉	5	5	羽田	瑛人	4	0	2	0	3				
0	0	0	0	0	岸田	卓	6	6	稲垣	圭亮	4	0	2	0	1				
2	4	5	0	14	松本	晃瑤	7	7	中石	昊希	12	1	4	1	3				
2	0	1	5	17	常深	星良	8	8	高木	秀隼	5	1	1	0	3				
2	2	1	0	4	大野	駿	9	9	和氣	宥希	13	3	1	2	1				
0	0	0	0	0	橘	利一	10	10	眞田	恵知	5	1	1	0	1				
1	0	0	0	0	肥塚	琉生	11	11	山縣	奏太	8	0	3	2	3				
1	4	2	0	8	川村	海誠	12	12	川口	寿音歩	2	0	1	0	1				
0	0	0	1	3	齋藤	貴道	13	13	竹内	爽良	2	0	1	0	0				
3	0	3	0	6	山本	優斗	14	14	馬越	光希	3	0	1	1	0				
0	0	1	0	2	田中	空雅	15	15	中河原	温大	4	0	2	0	1				
3	23	24	8	95							77	9	22	6	19				

戦評

【第1Q】

兵庫はオールコートのプレスディフェンスで仕掛けて⑫川村のフリースローや速攻で先行する。対する大阪は④米田の速攻や3Pシュートで巻き返し、残り7分で7-9と逆転する。その後はお互いに得点を取り合う展開となる。残り3分から兵庫が⑦松本のゴール下や④福本の3Pシュートやバスケットカウントワンスローなどで22-18と兵庫がリード。その後は大阪⑨和氣と兵庫⑬齋藤が3Pシュートを決め、25-23兵庫リードで第1Qを終了。

【第2Q】

兵庫はリバウンドで優位に立ち、多くのフリースローを得て優勢となる。残り6分、兵庫⑤大坪が



リバウンドからシュートをねじ込み34-25とすると、大阪はたまたずタイムアウト。大阪はディフェンスを2-2-1プレスからの2-3ゾーンに変更すると、兵庫の勢いは落ち着く。残り3分、大阪はもう一度タイムアウトを取ると、ここから⑦中石がミドルシュートや速攻を決め、残り0分、42-32と追いつける。ここから兵庫④福本がフリースロー3本とブザービートの3Pシュートを決めて大阪の反撃を断ち、48-34兵庫リードで後半へ。

【第3Q】

大阪はディフェンスをマンツーマンに戻す。兵庫④福本がドライブ、3Pシュート、リバウンドからと連続得点し、⑦松本のゴール下で59-36と突き放すと、大阪はたまたずタイムアウト。その後はお互いに得点を取り合い、大阪⑨和氣と兵庫⑧常深が2本ずつ3Pシュートを決める。75-49兵庫が大量リードを奪い、第3Qを終了。

【第4Q】

大阪は⑩眞田の3Pシュートや⑭馬越の速攻バスケットカウントワンスローなどで連続得点を挙げ、残り7分、75-59と一気に追いつける。大量リードの兵庫だがタイムアウトを取り、立て直しを図る。その後、兵庫⑧常深が、第3Q終盤からは5本連続となる3本の3Pシュートを決めて、大阪の追撃ムードを断つ。こうして兵庫が95-72で快勝し、決勝進出を決めた。

決勝

京都府													兵庫県												
24 — 24・15 — 25 23 — 7・20 — 17													73												
京都府													兵庫県												
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.		得点		③野	②野	自投	反則											
3	0	5	3	19	田中	夢大	4	4	福本	有都	21	2	4	7	2										
2	0	5	0	10	佐々木	凌汰	5	5	大坪	蒼哉	6	1	1	1	1										
1	0	0	0	0	千葉	颯太	6	6	岸田	卓	2	0	1	0	3										
0	0	1	1	5	中西	慶	7	7	松本	晃瑠	17	0	7	3	5										
2	4	6	0	16	佐藤	風	8	8	常深	星良	18	4	3	0	0										
3	0	2	0	4	川口	律	9	9	大野	駿	0	0	0	0	0										
2	7	2	0	11	神原	龍太郎	10	10	橘	利一	0	0	0	0	0										
2	0	0	0	0	小杉	思	11	11	肥塚	琉生	—	—	—	—	—										
0	0	0	0	0	横尾	理	12	12	川村	海誠	1	0	0	1	0										
1	0	0	1	3	藪	元太郎	13	13	齋藤	貴道	0	0	0	0	1										
—	—	—	—	—	上田	雄介	14	14	山本	優斗	6	0	3	0	3										
0	0	7	0	14	恒岡	ケイマン	15	15	田中	空雅	2	0	1	0	0										
16	11	28	5	82						73					7	20	12	15							

戦評

【第1Q】

互いにマンツーマンディフェンスが始まる。先制したのは兵庫。④福本が3Pシュート、その後も1on1のレイアップからバスケットカウントをもらうなどし、得点を重ねる。一方の京都も④田中、⑧佐藤のレイアップやオールコートマンツーマンディフェンスから仕掛けて得点を重ね、残り5分で10-8京都リード。その後、京都は⑮恒岡がゴール下での得点を重ね、兵庫は④福本のキックアウトパスから⑤大坪が3Pシュートを決めるなど互角の戦いを見せ、第1Qは24-24同点で終了。

【第2Q】

開始直後、兵庫⑥岸田が激しい1on1のディフェンスから京都のミス誘い、⑤大坪が速攻を決める。その後、兵庫はオールコートディフェンスで流れを作り、⑦松本のレイアップで残り6分28-32とリードする。京都は兵庫のタイムアウト後からオールコートマンツーマンディフェンスから得点、さらに3-2ゾーンディフェン



スで兵庫のリズムを崩しにかかるが、兵庫⑦松本がリバウンドをねじ込み、⑥岸田も1on1からの鋭いレイアップを決め、兵庫が一気に流れを引き寄せる。京都は④田中の1on1と3Pシュート、⑮恒岡のリバウンドシュートで再び巻き返しを図るも、39-49と兵庫が押し切る形で前半を終了。

【第3Q】

後半、兵庫⑧常深と⑭山本の2on2の得点で始まる。一方、京都は⑧佐藤の得点、④田中の3Pシュートを皮切りに、1-2-1-1ゾーンプレス、3-2ゾーンディフェンスで流れをつかもうとする。しかし兵庫は④福本が速攻からダנקシュートを狙い惜しくも外すが、コーナー3Pシュートを決めなおし、残り7分43-56と主導権を譲らない。白熱した戦いが続く中、京都は④田中の3Pシュート、⑩神原のリバウンドシュートで兵庫のファウルを誘い、一気に差を詰め残り2分36秒で52-56とする。更に2-2-1ゾーンプレスで兵庫からターンオーバーを誘い、連続得点で残り2分で58-56の逆転に成功。兵庫はタイムアウトを取るも、京都がそのままの流れで62-56と京都6点リードで第3Qを終了。

【第4Q】

兵庫は⑧常深の2本の3Pシュート、④福本の1on1で再び京都に迫り、残り7分で68-64とする。京都は⑧佐藤が1on1や⑤佐々木への合わせのパスで残り5分、72-64としたところで兵庫がタイムアウト。その後は互いに気迫あふれる闘いを見せる中、兵庫⑦松本がリバウンドシュート、速攻のレイアップ、1on1などで連続して得点を重ねる活躍を見せ、残り1分25秒で76-73と迫る。しかし京都⑧佐藤が苦しい体勢からもジャンプシュートを決め、最後には④田中が試合を決める3Pシュートを決め、京都が兵庫の猛追を振り切った。兵庫④福本も21点を取る活躍を見せたが、京都が粘り強さを見せ82-73と勝利し、優勝を果たした。

成年女子

予選リーグ

京都府 89 $\left[\begin{array}{l} 35 - 13 \cdot 19 - 17 \\ 16 - 9 \cdot 19 - 23 \end{array} \right]$ 62 兵庫県



滋賀県 105 $\left[\begin{array}{l} 26 - 21 \cdot 29 - 21 \\ 23 - 17 \cdot 27 - 15 \end{array} \right]$ 74 兵庫県

滋賀県										兵庫県									
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則				
1	3	3	0	9	岡田	咲恵	4	4	若林	紅葉	4	0	2	0	1				
3	2	3	1	11	大橋	瑠菜	5	5	幕	風沙	5	1	0	2	2				
2	2	6	0	14	大橋	璃菜	6	6	祇園	来美	3	1	0	0	2				
1	1	3	1	10	藤田	夏生	7	7	瀬川	心暖	1	0	0	1	2				
2	0	0	1	3	杉	咲里奈	8	8	高橋	楓	14	0	7	0	1				
2	2	1	0	4	前田	芽生	9	9	宮本	鈴音	5	1	1	0	0				
0	2	2	0	6	山岡	まつり	10	10	山田	美空	1	0	0	1	3				
4	5	4	0	13	石垣	優衣	11	11	美浪	ひかる	2	0	0	2	0				
1	2	1	1	7	紺谷	那海	12	12	永野	真光	4	0	2	0	5				
1	0	2	1	7	杉野	未怜	13	13	石原	妃菜	13	0	5	3	2				
3	2	2	5	21	中山	和奏	14	14	北野	花	19	2	4	5	1				
0	0	0	0	0	濱江	麻冬	15	15	松岡	歩菜	3	0	1	1	3				
20	21	27	10	105							74	5	22	15	22				



戦評

【第1Q】

滋賀はジャンプボール直後、⑥大橋瑠がファウルを受けフリースローで得点。兵庫は⑭北野が得点するもその後ミスが重なる。滋賀は⑤大橋瑠の3Pシュート、④岡田のパスカットからレイアップ、ドライブからバスケットカウントワンショット、さらに速攻を繰り出し⑬杉野がシュートを決め、残り6分12-2と滋賀がリードする。兵庫は選手交代を繰り返し、⑥祇園の3Pシュート、④若林、⑧高橋が得点するも、残り2分22-13滋賀リードで兵庫タイムアウト。兵庫は⑬北野が連続得点し、滋賀は2分間得点なく、26-21滋

賀リードで終える。

【第2Q】

兵庫は⑬石原のインサイドにボールを集めて連続で得点するも、その後3分ノーゴール。滋賀は⑭中山を中心に確実に得点を重ね、残り6分37-25滋賀リード。残り4分、滋賀⑦藤田の3Pシュートが決まり、44-29で兵庫のタイムアウト。その後兵庫はテンポを上げ、⑤幕と⑭北野が得点を重ね、55-42滋賀リードで前半を終了する。

【第3Q】

兵庫はゾーンディフェンスを仕掛けるも、滋賀は⑬杉野の3Pシュートやエンドラインからのスローインから確実にゾーンを攻略し、得点を重ねる。兵庫は⑬石原のインサイドや⑭北野の3Pシュートで得点するが、残り7分から3分間得点がなく、残り4分69-50滋賀リード。兵庫はマンツーマンディフェンスでメンバーを頻繁に入れ替え、78-59滋賀リードで最終クォーターへ。

【第4Q】

兵庫はインサイドにボールを集め、粘りを見せるも、残り6分に⑬石原が負傷し、その後⑫永野が5ファウルで退場する。滋賀は控えメンバーを中心に得点を重ね、105-74と滋賀が勝利した。

少年女子

予選リーグ

兵庫県 82 $\left[\begin{array}{l} 20 - 21 \cdot 17 - 18 \\ 27 - 14 \cdot 18 - 15 \end{array} \right]$ 68 滋賀県

京都府 84 $\left[\begin{array}{l} 27 - 18 \cdot 14 - 17 \\ 22 - 21 \cdot 21 - 15 \end{array} \right]$ 71 兵庫県



準決勝

兵庫県 78 $\left[\begin{array}{l} 14 - 19 \cdot 31 - 14 \\ 17 - 14 \cdot 16 - 14 \end{array} \right]$ 61 大阪府

兵庫県										大阪府									
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則				
1	0	5	0	10	渡部	陽美	4	4	新山	凜	4	0	2	0	2				
4	3	5	0	13	小堀	愛音	5	5	高橋	心愛	2	0	1	0	4				
0	1	4	1	12	東中	梓	6	6	三輪	美良々	14	0	4	6	1				
1	0	0	0	0	十河	愛	7	7	荒木	琉伽	0	0	0	0	0				
1	0	2	0	4	松野	希咲	8	8	黒川	春陽	1	0	0	1	0				
0	0	1	3	11	小田	歩羽彩	9	9	島袋	凜心	5	1	1	0	1				
1	0	1	0	2	権野	あぐり	10	10	富田	涼々野	10	0	5	0	0				
0	0	0	0	0	櫻井	奈実	11	11	幡出	麗実	17	3	4	0	1				
3	0	1	0	2	佐野	真理奈	12	12	的場	梨緒	3	0	0	3	3				
0	1	3	1	10	四谷	花音	13	13	西澤	楽菜	0	0	0	0	1				
1	0	3	0	6	木下	楓	14	14	林	優里奈	0	0	0	0	0				
3	2	0	2	8	黒田	希歩	15	15	國武	珂憐	5	1	1	0	1				
15	7	25	7	78							61	5	18	10	14				

戦評

【第1Q】

兵庫は④渡部と⑤小堀のインサイドプレーを中心に得点を重ね、大阪は⑪幡出の3Pシュートや⑩富田の速攻などで得点を重ねていく。ハーフコートマンツースタートした両チームだったが、残り6分兵庫が選手交代をしたタイミングで、大阪はオールコートマンツースに切り替えてプレッシャーをかけ、5点をリードする。兵庫は選手を戻すが、大阪⑮國武の3Pシュートに続き④新山の速攻が決まり、点差は縮まらず14-19大阪リードで第1Q終了。

【第2Q】

兵庫は粘り強いディフェンスで24秒をしっかりと守り抜き、⑨小田の3Pシュートで流れを掴んで、残り6分、⑥東中がパスカットからの2対1を決め、25-23で兵庫が逆転する。大阪はタイムアウトを取って立て直すも、兵庫⑨小田の3Pシュートや⑭木下のシュートを止めることはできず、45-33兵庫がリードして前半終了。

【第3Q】

大阪はオフェンスリバウンドを粘り強く取り、⑥三輪のゴール下や⑪幡出の3Pシュートで得点を重ね、じりじりと点差を詰めようとする。スクリーンを使いながら確実なシュートチャンスを掴んでいたが、兵庫⑮黒田が3Pシュートを決めて流れを兵庫に引き戻し、62-47兵庫リードのまま勝負は最終クォーターへ。

【第4Q】

どちらも激しいディフェンスをしかけ、両チームともに着実に点数を重ねていく。残り6分、兵庫⑥東中が速攻を決め、大阪はタイムアウトを取り、ここから強いプレッシャーでダブルチームを仕掛けて相手のミスを誘う。しかしチームファウルが重なってしまい、兵庫⑤小堀の強いリバウンドから始まる攻撃を止めることができず、78-61で兵庫が勝利した。この勝利により兵庫少年女子は、国体本大会の出場権を獲得した。



決 勝

京都府 105										29 - 16 - 26 - 22										32 - 19 - 18 - 23										80 兵庫県									
京都府										兵庫県																													
反則	自投	②野	③野	得点						No.	No.		得点	③野	②野	自投	反則																						
1	3	7	2	23	林	咲良				4	4	渡部	陽美	8	0	4	0	2																					
1	0	0	0	0	米島	愛華				5	5	小堀	愛音	6	1	1	1	2																					
1	0	0	1	3	大久保	奈美				6	6	東中	梓	2	0	0	2	2																					
1	0	1	0	2	十倉	陽美				7	7	十河	愛	11	1	4	0	1																					
0	0	0	0	0	金谷	悠加				8	8	松野	希咲	5	1	1	0	1																					
1	0	0	0	0	古川	光鈴				9	9	小田歩	羽彩	11	3	1	0	0																					
2	2	3	0	8	フェリックス	チヂマクララ				10	10	権野	あぐり	0	0	0	0	2																					
1	1	8	0	17	石渡	セリーナ				11	11	櫻井	奈実	15	2	3	3	0																					
1	0	1	0	2	坂口	美果				12	12	佐野	真理奈	4	0	2	0	1																					
3	2	4	1	13	太田	楓				13	13	四谷	花音	7	0	2	3	1																					
0	0	0	0	0	藤田	瑞木				14	14	木下	楓	7	0	2	3	2																					
3	3	17	0	37	ユサワ	ダランレア	アイシャット			15	15	黒田	希歩	4	0	2	0	1																					
15 11 41 4 105																				80 8 22 12 15																			

戦評

【第1Q】

兵庫は、京都の1-2-2ハーフコートゾーンディフェンスを⑤小堀や⑦十河の3Pシュートなどで攻略する。ディフェンスをハーフコートマンツーマンディフェンスに切り替えた京都は、ディフェンスからリズムを作り、④林や⑬太田のドライブ、⑮アイシャットのインサイドで得点する。兵庫は④渡部の1on1で応戦するも、アウトサイドシュートが決まらず、その後約4分間得点できず苦戦する。29-16京都リードで第1Q終了。

【第2Q】

両チーム一進一退の攻防が繰り返される。京都は④林が3Pシュートを決めて流れを引き寄せ、⑪石渡のインサイド、⑬太田の速攻など連続得点を成功させ流れを掴む。残り5分、兵庫は前半1回目のタイムアウトを要求。メンバーを変更した兵庫は、機動力を生かした戦術に切り替える。これが功を奏し、リズムを作った兵庫は⑨小田が3Pシュートを決め、⑤小堀がバスケットカウント後のフリースローも決め、点差を詰める。55-38京都リードで前半終了。

【第3Q】

京都は⑮アイシャットのインサイドアタックで確実に得点を積み重ね、危なげない試合運びで兵庫との点差をじわじわと広げていく。残り4分、兵庫は後半1回目のタイムアウトを要求し、前半同様メンバーを変え、戦術を切り替える。ディフェンスで仕掛けて相手のミスを誘い、得点につなげる。87-57京都リードで第3Q終了。

【第4Q】

兵庫は機動力を生かしたオフェンスから⑪櫻井の活躍で得点を重ねるが、京都④林、⑩クララ、⑮アイシャットが要所で活躍し、反撃を許さない。試合はこのまま流れを渡さなかった京都がリードを守り、105-80で優勝した。最後まで諦めない姿勢を見せた兵庫も称賛したい。



第78回兵庫県総合バスケットボール選手権大会 兼 第99回天皇杯・第90回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会 兵庫県代表決定戦

男子の部★神戸医療未来大学が2連覇、
女子の部★武庫川女子大学が4大会連続16度目の優勝

令和5年8月20日（日） 関西学院大学

《総評》

令和5年8月19日（土）、20日（日）の日程で第78回兵庫県総合バスケットボール選手権大会 兼 第99回天皇杯・第90回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会 兵庫県代表決定戦が関西学院大学でおこなわれた。

男子の部は神戸医療未来大学が大会2連覇、女子の部は武庫川女子大学が4大会連続で制し16度目の優勝を飾った。優勝した両チームは9月に新潟県佐渡ヶ島でおこなわれる第99回天皇杯・第90回皇后杯全日本社会人バスケットボール選手権大会 1次ラウンドへの出場権を得た。

男 子 決 勝

神戸医療未来大学 100 [14 - 32 - 39 - 20] 93 信和グループ

神戸医療未来大学							信和グループ						
反則	自投	②野	③野	得点		No	No		得点	③野	②野	自投	反則
—	—	—	—	—	堀川 祐喜	1	2	廣山 雅尚	14	2	4	0	1
—	—	1	—	—	撫 直樹	2	7	竹内 綾佑	3	1	0	0	0
0	0	1	0	2	朝比航太郎	3	8	井上 敬翔	9	1	3	0	2
—	—	—	—	—	小山 輝音	9	9	藤野 隆斗	6	0	2	2	1
—	—	—	—	—	段林 篤史	10	11	室垣 佑真	13	3	2	0	2
0	0	0	2	6	池田 龍紀	13	12	萩原 卓司	1	—	—	—	—
1	1	5	5	26	板敷 遼	15	13	小島 基嵩	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	中村 龍也	18	16	奥田 大士	0	0	0	0	0
—	—	—	—	—	山田 峻大	21	17	真鍋 良太	36	8	5	2	3
1	1	14	0	29	刈谷 拓也	32	20	保花 広樹	10	2	1	2	1
—	—	—	—	—	江本 一真	33	33	生越 陸也	2	0	1	0	3
2	0	2	0	4	山本 梨功	35							
4	1	1	4	15	田中虎太郎	36							
2	2	4	2	16	中村 瑞樹	39							
—	—	—	—	—	田原 哲也	56							

10 5 28 13 100 93 17 18 6 13



戦評

第1クォーター

神戸医療未来大学（以下、神戸医療）は⑮板敷、⑳フセイン、㉓山本、㉖田中、㉙中村、信和グループ（以下、信和）は②廣山、⑧井上、⑰真鍋、㉒保花、㉔生越でスタート。

信和は㉒保花がオープニングショットの3Pシュートを決め先制。㉔生越のドライブも決まりリードする。信和のショットが高確率で決まりリードを広げる。神戸医療は信和のゾーンの前になかなか得点が出来ない。信和⑰真鍋が連続得点し8-23と15点差となったところで神戸医療はたまたまタイムアウトを請求。タイアウト後、神戸医療は㉙中村、㉒フセインの活躍で加点するも14-32と信和がリードし、このクォーターが終了した。

第2クォーター

信和は引き続きゾーンを敷くも神戸医療も徐々に外のシュートが決まり出す。⑮板敷の3Pシュート、㉒フセインのダンクが決まり28-39と点差が詰まったところで信和が前半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、神戸医療は前から激しくプレッシャーをかけ信和のミスを誘い⑮板敷が再び3Pシュートを決め8点差とする。神戸医療はディフェンスの強度を一気に上げ、オフェンスにも勢いが出てくる。一方、信和は神戸医療のディフェンスの前に良い流れが作れず②廣山が立て続けにシュートを決め意地を見せるも神戸医療がこのクォーターだけで39得点し53-52と逆転してこのクォーターが終了した。

第3クォーター

神戸医療はディフェンスをゾーンに変えるも信和⑧井上が3Pシュートを決め逆転、②廣山もミドルを決めリードする。神戸医療はエンドスローから㉒フセインが沈め譲らない。信和⑰真鍋がオフェンスリバウンドからゴール下を沈めると、神戸医療も㉒フセインがリバウンドから加点する。直後、神戸医療はディフェンスの

プレッシャーを高め信和のミスを誘い㊟田中がブレイクを決める。信和は神戸医療の2-3ゾーンを攻めあぐね加点できない中、逆に神戸医療は㊩板敷の3P、続けてブレイクも決まり68-59と11点差となったところで信和がたまたらず後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、信和㊴真鍋が3Pシュートを決め意地を見せるも神戸医療が81-71と10点差を付けてこのクォーターを終了した。



第4クォーター
共にゾーンを継続しスタートする。信和は合わせから㊠室垣が得点、神戸医療はシュートは外れるも㊟フセインがリバウンドから加点する。信和は神戸医療のゾーンに対し果敢にドライブを仕掛けるが㊟フセインの強烈なブロックなどでなかなか得点出来ないが㊴真鍋、㊠室垣の3Pシュートが連続で決まり87-82と5点差となったところで神戸医療が後半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、神戸医療は㊟中村、㊩池田が連続して3Pシュートを決め再び二桁得点差とした。信和は㊴真鍋が孤軍奮闘の活躍を見せるが神戸医療が最後まで主導権を渡さず100-93で大会2連覇を飾り



9月に新潟県佐渡ヶ島でおこなわれるオールジャパンの1次ラウンドへ進出した。

女子
決勝

武庫川女子大学 75 [16-12・19-23] 72 関西学院大学
16-21・24-16

武庫川女子大学										関西学院大学									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則							
—	—	—	—	—	岩永	慶香	4 0	長田	未来	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	0	4	2	14	若林	紅葉	5 3	有星	遥野	7	0	3	1	0	—	—	—	—	—
1	0	0	0	0	高	梨未	6 5	前田	心咲	20	2	7	0	2	—	—	—	—	—
2	0	1	0	2	幕	風沙	7 6	伊藤	希	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	0	0	0	福田	光穂	8 7	片松	茉優	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	祇園	来美	9 14	北野	花	10	1	3	1	1	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	吉沢	楓彩	10 17	北之防	希光	3	1	0	0	1	—	—	—	—	—
1	0	0	0	0	浦野	来望	11 18	木下	万悠子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	2	5	1	15	高橋	楓	12 22	石原	紀葉	14	0	5	4	3	—	—	—	—	—
1	2	0	1	5	瀬川	心暖	13 23	辻畑	有咲	0	0	0	0	4	—	—	—	—	—
0	1	0	2	7	宮本	鈴音	14 25	有原	夢乃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	6	10	0	26	NAKEDDZ	FAVOUR	ONYAYE	15 28	太田	みや	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	山田	美空	16 45	永野	真光	8	0	4	0	4	—	—	—	—	—
0	0	0	2	6	榎本	菜々花	17 75	前田	芽衣	10	2	1	2	3	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	下田	ひなの	18 87	斉藤	波菜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	0	0	0	美南	ひかる	26			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

16 11 20 8 75 72 6 23 8 18



戦評

兵庫県1位のチームを決める今大会、対戦カードは昨年と同じく武庫川女子大学対関西学院大学。
試合は序盤から激しい攻防が繰り広げられた。第1クォーター、最初に流れを掴んだのは武庫川。㊟若林を中心に得点を積み重ね、リードを奪った。対する関学大も㊟前田の正確なシュートと、㊟前田（芽）の素早いドライブで得点を重ね、第3クォーターで逆転。最大11点差まで点差を広げた。しかし武庫川は粘り強くシュートを狙い続け、第4クォーター残分2㊴榎本が3Pシュートを沈めついに逆転に成功。そのまま主導権を渡さず75-72で試合終了のブザーが鳴る。武庫川が4大会連続16度目の優勝を決めた。

第1クォーター

開始早々、関学大㊟前田の華麗なアシストに関学大㊟石原が合わせ得点を挙げると、すかさず武庫川㊟若林が3Pシュートを決め応戦。序盤から決めては決め返す激しい攻防が展開される。残分5武庫川は厳しいディフェンスから相手のミスを誘い連続で得点を決める。対する関学大は㊟前田を中心に果敢にゴールを狙うが、苦しいシュートを強いられ得点を決めることができない展開が続いた。流

れを変えたい関学大はタイムアウトを請求。タイムアウト終了後すぐに関学大は㊟前田（芽）が3Pシュートを沈め食らいつく。激しい攻防が展開された第1クォーターは16-12武庫川がわずかにリードし終了。

第2クォーター

開始から関学大㊟前田（芽）が積極的にドライブをしかけ流れを呼び込みすぐさま逆転する。武庫川はすぐさまタイムアウトを請求し関学大の流れを断ち切ろうとするも関学大の勢いは止まらずリードが広がる。武庫川はシュートを狙うもゴールに嫌われる苦しい時間が続いたが㊴幕、㊟若林を中心に粘り強く攻撃を仕掛け着実に得点を決め終了間際に関学大からリードを奪い返す。しかし、関学大㊟前田がブザービーターを決め武庫川にリードを許さない。展開が激しく動いた第2クォーターは35-35で終了。

第3クォーター

開始すぐに武庫川㊩FAVOURがシュートを決めリードを奪う。すかさず関学大㊟石原がジャンプシュートを決め再び同点にする。出だしから両者一歩も譲らない激しい攻防が繰り広げられ、決め手は決め返すシーソーゲームが続いた。先に均衡を破ったのは関学大、残り25秒で関学大㊴北野がファウルを貰いながらシュートを沈めリードを広げる。バスケットカウントワンスローも沈めさらに点差を広げた。膠着状態が続いた第3クォーターは51-56で関学大がリードを奪い最終クォーターへ。

第4クォーター

開始早々関学大㊟前田、㊴北野が連続でシュートを決めさらにリードを広げる。武庫川は㊟若林が3Pシュートを沈め食らいつくが、関学大は着実に得点を重ね武庫川に追従を許さない。なんとか流れを変えたい武庫川は残り7分で後半2回目のタイムアウトを請求する。落ち着きを取り戻した武庫川は厳しいディフェンスからミスを誘い得点を重ね、じわじわと点差が縮まる。たまたらず関学大は



タイムアウトを請求するが武庫川の勢いは止まらず、武庫川㊴榎本、㊩FAVOURに連続得点を許し、武庫川が逆転に成功。関学大は果敢に攻撃を仕掛けるが届かず、75-72で試合終了。武庫川が勝利を掴んだ。



特別国民体育大会 ～燃ゆる感動かごしま国体～

期 日 2023年10月12日(木)～10月16日(月)

会 場 (少年男子) 薩摩川内市総合運動公園総合体育館(サンアリーナせんだい)
(少年女子) いちき串木野市総合体育館

《総評》

日本のみならず全世界でたいへんな毎日をおすごしてきたコロナ禍であった。その中で当初開催される予定の2020年度には、棄権する府県もありながら、8月にかろうじて近畿ブロック大会は開催されたものの、他ブロックでは開催できないところもあり、結局鹿児島国体は一旦中止となった。鹿児島県からは、ぜひ国体を開催したいという強い要望もあり、2023年度に通算回数をなくして特別国民体育大会『燃ゆる感動かごしま国体』として開催された。

少年男子

2回戦

静岡 77 [20-25・20-14] 73 兵庫

静岡										兵庫									
反則	自投	②野	③野	得点			得点	③野	②野	自投	反則								
3	4	6	1	19	No.	No.	4	4	福本	有都	18	1							
5	0	1	0	2	高松 悠季	4	4	大坪 蒼哉	2	0	1	0	4						
0	7	3	0	13	野津 洸創	5	5	岸田 卓	0	0	0	0	0						
0	0	0	0	0	高森カイル	6	6	晃瑠 星良	17	1	5	4	4						
2	0	4	2	14	大長 真士	7	7	松本 駿	11	3	1	0	2						
2	0	3	1	9	金子 来樹	8	8	大野 利一	2	0	1	0	0						
2	0	1	2	8	檜垣 奏太	9	9	橘 靖大	0	0	0	0	0						
0	0	0	0	0	福岡 聖也	10	10	加藤 海誠	0	0	0	0	0						
1	2	1	0	4	西垣 玲央	11	11	川村 貴道	10	2	2	0	4						
0	0	0	0	0	末永 蒼	12	12	齋藤 優斗	2	0	1	0	2						
0	0	0	0	0	村上 幸斗	13	13	山本 空雅	2	0	1	0	2						
1	2	1	0	4	高木 強臣	14	14		11	0	4	3	4						
3	0	2	0	4	ERIKENBATE ERIKENSANHAN	15	15	田中	0	0	0	0	0						
19	15	22	6	77					73	7	20	12	21						

19 15 22 6 77 73 7 20 12 21

大会2日目の少年男子2回戦、シードを与えられていたので、兵庫はこれが初戦であった。静岡は、前日の1回戦の余勢を駆っての戦いであった。兵庫は、1Qで7点リードを奪い、そのまま押し切れるかと思われたが、2Q終了間際に逆転を許し、後半も何度も逆転、再逆転と繰り返していったが、最後は静岡が連



続得点を決めて、73-77で兵庫は2回戦敗退となった。

少年女子

1回戦

千葉 71 [14-21・25-17] 61 兵庫



千葉										兵庫									
反則	自投	②野	③野	得点	No.		No.		得点	③野	②野	自投	反則						
4	3	10	0	23	牧野	琉依	4	4	渡部	陽美	21	1	9	0	3				
0	3	5	0	13	山下笑	伶奈	5	5	小堀	愛音	5	0	2	1	0				
2	0	1	3	11	染谷	音央	6	6	東中	梓	5	0	2	1	1				
3	0	6	0	12	渡部	怜梨	7	7	十河	愛	5	1	1	0	1				
0	0	0	0	0	成嶋	美桜	8	8	松野	希咲	0	0	0	0	1				
2	0	0	0	0	藤松	柚乃	9	9	小田歩	羽彩	3	1	0	0	1				
3	1	3	1	10	石井	杏奈	10	10	権野	あぐり	2	0	1	0	2				
0	0	0	0	0	中尾	果楓	11	11	櫻井	奈実	4	0	2	0	0				
0	0	0	0	0	灰野	夏未	12	12	佐野真	理奈	0	0	0	0	2				
0	0	0	0	0	安川	稀尋	13	13	四谷	花音	2	0	1	0	1				
0	0	0	0	0	藤原あ	かり	14	14	木下	楓	12	1	3	3	1				
0	0	1	0	2	御堂	明夢	15	15	黒田	希歩	2	0	1	0	0				
14	7	26	4	71						61	4	22	5	13					

14 7 26 4 71 61 4 22 5 13

大会1日目の少年女子1回戦に出場した兵庫は、試合開始からオフェンスの流れをつかみ、2Q終盤まではリードを保っていたが、千葉もドライブやトランジションの仕掛けをメンバー交代しながら展開して、2Q終了間際に逆転した。その後、一進一退の攻防が続き、点差が詰まる場面もあったが、71-61で兵庫は惜敗した。

令和5年度全国高等学校バスケットボール選手権大会兵庫県予選兼 第77回兵庫県民体育大会バスケットボール競技



男子 ● 育英、全国8強の報徳を破る劇的V(6年ぶり32回目)

女子 ● 三田松聖、全国16強の貫禄で4連覇!(4年連続4回目)

令和5年10月21日(土)～11月4日(土) グリーンアリーナ神戸、各高校体育館

《総評》

令和5年度のウインターカップ県予選は、新型コロナウイルスによる入場制限などがなくなり、かつての観客と歓声が完全に戻ってきた大会となった。なお、男女決勝はサンテレビにて生中継された。

女子の準決勝、インターハイ全国ベスト16の三田松聖は、多彩な攻撃パターンで第2Qでリードを奪い、好敵手である市尼崎を83-68で下した。もう一方の準決勝は、県総体準優勝の公立高の星・宝塚西に対し、神戸龍谷が運動量とシュート力で圧倒し100-77で勝利した。神戸龍谷は3Pシュートを12本も決め、キャプテン⑧島谷は37得点と活躍した。3位決定戦は市尼崎が70-56で宝塚西に勝利した。決勝はインサイドで序盤から優位に立った三田松聖が、華麗な個人技と連係プレーを披露し、準決勝まで全て100点ゲームで勝ち上がった神戸龍谷を59点に抑え、4連覇を果たした。

男子はベスト8に市西宮が2年生以下の新チームで入る健闘をみせた。ノーシードの関学は3回戦で市尼崎を4点差、準々決勝で三田松聖を5点差で下し、ベスト4に進出した。男子の準決勝、インターハイ全国ベスト8の報徳に対し、これも公立高の星・尼崎双星は前半43-37の6点差と粘る健闘を見せたが、84-64で敗退した。もう一方の準決勝は、育英が関学を106-70で下した。3位決定戦は、尼崎双星は4Qに一時逆転して粘るものの、高さで選手層で優位に立つ関学が93-85で勝利した。決勝は、全国総体(インターハイ)8強の報徳と、その県予選で第4Q残り2分に1点差と迫った育英との、しびれるようなシーソーゲームとなった。高さで劣る育英が必死のリバウンドで互角に持ち込み、精度の高い外角シュートでゲーム終了時にわずか1点だけ報徳を上回り、見事リベンジを果たして6年ぶりの優勝を勝ち取った。

ウインターカップ全国大会では、男女ともインターハイを上回る兵庫県勢の活躍を期待したい。



男子

決勝

育英 68 [15-17・17-17] 67 報徳

育 英										報 徳									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則					
—	—	—	—	—	堀川	優太	0	00	山本	獅子	—	—	—	—					
4	3	1	5	20	竹本	龍二	3	2	宮園	遼	8	2	1	0	1				
1	0	0	3	9	長田	祐聖	5	3	富本	真脩	—	—	—	—	—				
0	0	0	0	0	山内	康生	6	5	江岡	大登	—	—	—	—	—				
0	0	4	0	8	藤村	日向	11	7	森本	虎志	24	1	10	1	4				
—	—	—	—	—	内谷	英太	15	8	森	脩平	2	0	1	0	0				
2	1	0	0	1	三井	太雅	17	10	大澤	一輝	6	1	1	1	1				
1	0	3	1	9	羽澤	要	18	13	星原	甲治	2	0	1	0	2				
2	3	7	0	17	馬場	瑠音	22	15	久保	晴熙	—	—	—	—	—				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	0	4	1	0				
0	0	1	0	2	熊谷	壮真	31	34	松本	晃瑠	—	—	—	—	—				
4	0	1	0	2	竹内	琉人	39	45	上田	悠真	—	—	—	—	—				
1	0	0	0	0	山川	英哲	57	71	北村	優光	4	0	2	0	0				
—	—	—	—	—	川村	海誠	69	74	美川	祐亮	8	0	4	0	1				
—	—	—	—	—	廣井	悠真	91	97	井藤	匠哉	4	0	2	0	3				

15 7 17 9 68 67 4 26 3 12

戦評

第1Q、両者マンツーマンディフェンスで試合開始。報徳⑦森本の鋭いドライブや⑫福本のバスケットカウントなどで0-8と報徳リード。育英は⑤長田の2本の3Pシュートなどで応戦する。報徳⑭美川がゴール下でシュートをねじ込むと、高さで勝る報徳にイン



サイドの主導権を握らせまいと、育英はディフェンスリバウンドの死守に奮闘する。育英は⑮羽澤がリバウンドからゴールをねじ込み、⑳馬場が速攻からバスケットカウントを決めて追撃し、15-17報徳が2点リードして第1Qを終える。

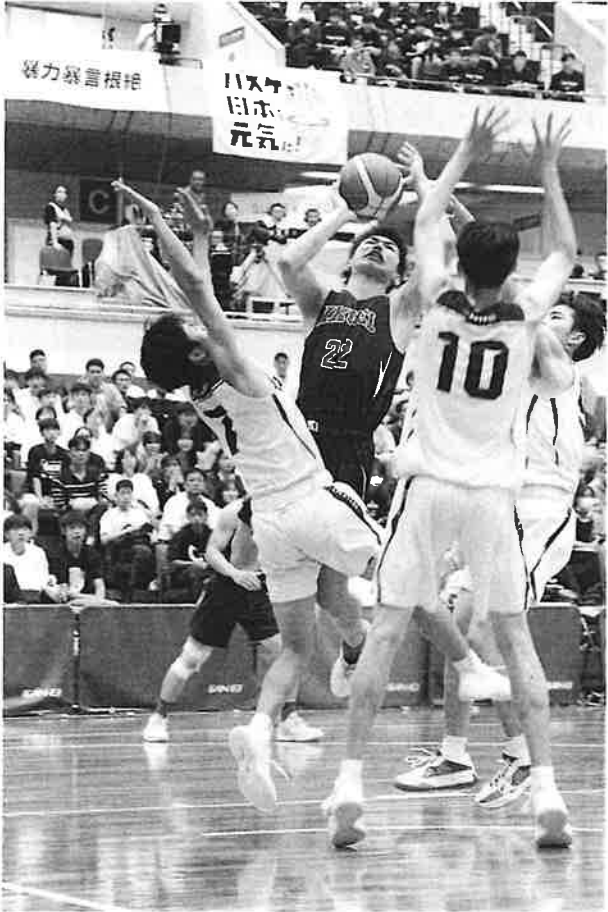
第2Q、激しい競り合いが続く中、残り7分で育英⑪藤村がシュートを決め、22-21と育英が初めてリードを奪う。一方、残り5分で報徳は②宮薗が3Pシュートを決め、22-28と再逆転してさらにリードを奪う。育英はディフェンスでインサイドを固めてリバウンドを安定させると、報徳の外角シュートが決まらなくなる。その間に育英は⑪藤村らが得点を重ね、残り4分で28-28の同点に追いつく。報徳はタイムアウトで立て直しを図り、⑦森本が鋭いドライブを2本決めて先行する。育英は㉒馬場が速攻などを決めて応戦し、両者全く譲らない。報徳が32-34と2点リードして後半へ。

第3Q、報徳⑦森本からのアシストで㉒福本がシュートを決めるが、育英は③竹本が3Pシュート、㉒馬場が速攻やリバウンドからのシュートを決め、残り7分で39-36と流れは完全に育英へ。報徳はタイムアウトを取るものの、育英③竹本がさらに3Pシュートを連続で決め、さらにドライブでも得点し、残り4分で47-42とする。一方の報徳は⑦森本がドライブを3本、⑩大澤のターンシュートなどで必死に追撃する。このあと、育英⑮羽澤と⑤長田が3Pシュートを決め、残り2分で53-49と育英がリードを保つ。外角シュートが入らずに苦しんでいた報徳は、普段はあまり打たない3Pシュートを⑦森本が決め、55-54とした。育英が5本も3Pシュートを決めた第3Qだが、55-54と育英がわずか1点リードで最終Qへ。

第4Q、お互いが必死のディフェンスとリバウンド争いで得点かと思うように伸びない中、報徳は⑧森のゴール下と⑦森本の2本のドライブで57-60と逆転し、残り6分で育英はたまたまタイムアウト。すぐに③竹本の3Pシュートで追いつくと、⑮羽澤の速攻、そして

③竹本の5本目の3Pシュートで68-62と突き放す。この間、⑬星原のフローターをみの得点に終わった報徳は残り2分、タイムアウトを取る。報徳は⑦森本がフリースロー、㉒福本がドライブを決め、残り31秒で68-65と3点差に迫る。育英の攻撃をしのいだ報徳はタイムアウトを取り、残り12秒で最後の攻撃のスローインを得る。そして報徳⑦森本が放った同点を狙った3Pシュートはリングに弾かれるが、㉒美川がリバウンドを奪いすぐにシュートを決めたところでホイッスル。シュート時にファウルされていたので、残り0.4秒、68-67の1点ビハインドでフリースローを得る。しかし、このフリースローが無情にも決まらず、史上まれに見る壮絶なシーソーゲームは育英が制した。

大歓声の中、死闘を繰り上げた両チームの健闘を称えたい。夏のインターハイで全国8強入りした報徳の想いも背負って、育英にはウインターカップ全国大会で活躍して欲しい。



女子

決勝

三田松聖 100 [23 - 14 · 30 - 11] 59 神戸龍谷
25 - 17 · 22 - 17

三田松聖										神戸龍谷									
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則					
2	4	5	0	14	東 奈那	7	1	北村 悠生	2	0	0	2	1						
0	2	12	0	26	崔 瑞陽	8	7	森井 玲名	8	0	4	0	2						
1	1	0	0	1	東中 梓	9	8	島谷 芽依	29	3	9	2	1						
0	0	1	0	2	竹内 愛	10	10	植木 亜美	—	—	—	—	—						
0	0	11	0	22	竹中 凜	13	14	奥丁 陽向	—	—	—	—	—						
0	0	0	0	0	黒田 希歩	14	21	小笹 琉依	—	—	—	—	—						
1	0	0	1	3	東 寧音	16	25	櫻井 奈実	0	0	0	0	0						
3	3	3	1	12	渡部 陽美	17	27	吉田 想来	—	—	—	—	—						
0	0	0	0	0	花房 凜都	30	28	大場 葵	—	—	—	—	—						
0	0	0	0	0	四谷 花音	47	31	桑島 麻帆	—	—	—	—	—						
—	—	—	—	—	中村 その	55	34	中野 杏奈	—	—	—	—	—						
0	0	0	0	0	阿部 芽奈	56	41	森藤 結	6	0	3	0	3						
0	0	2	0	4	白簗 空知	77	53	櫻井 彩那	2	0	1	0	4						
1	0	4	0	8	木下 楓	79	71	河野 心菜	12	1	3	3	2						
1	0	1	2	8	初谷 一葉	85	87	山下 花	0	0	0	0	0						
9 10 39 4 100										59 4 20 7 13									

戦評

第1Q、立ち上がりは両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。序盤は点の取り合いとなる。神戸龍谷はハンドオフやピック&ロールでズレを作り、⑧島谷、㉒河野が3Pシュート、⑦



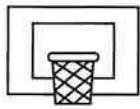
森井がドライブを決める。対する三田松聖は高さの有利を活かし、⑧崔と⑬竹中のハイローにボールを集めて攻撃し、ディフェンスがインサイドに収縮すると㉒初谷が3Pシュートを決める。三田松聖の⑦東が交代で入ると試合が動きはじめ、スピード溢れるドリブルからドライブを決め、さらにはディフェンスが寄せを早くしたところでアシストをさばく。対応できない神戸龍谷はチームファウルが溜まり、残り2分でタイムアウトを取る。その後も三田松聖は高さを活かしてゴール下を確実に決め切り、23-14三田松聖リードで第1Q終了。

第2Q、流れを変えたい神戸龍谷は2-3ゾーンディフェンスに変更するも、生命線の3Pシュートに当たりが来ず、逆にそのリバウンドを取った三田松聖は、司令塔である㉒初谷が巧みなボールコントロールから華麗なアシストを連発し、⑩東の3Pシュート、⑬竹中のゴール下などでリードを広げる。三田松聖39-18神戸龍谷の21点差になった残り5分で神戸龍谷2回目のタイムアウト。後がない神戸龍谷は⑬櫻井のバスケットカウント、⑧島谷のドライブで必死に食らいつくが、さらに点差は28点差に広がり、53-25と三田松聖が圧倒して前半終了。

第3Q、出だしから三田松聖⑧崔がチーム4連続ゴールを決め、さらにリードを広げる。神戸龍谷はキャプテン⑧島谷が意地を見せドライブや3Pシュートを決めるが、流れを引き寄せることが出来ない。三田松聖⑧崔がこのクォーター15得点の活躍を見せ、78-42の36点差で第3Q終了。

第4Q、三田松聖はベンチメンバーを出場させながらも確実に加点する。神戸龍谷も点差は開いてはいるものの、最後まで自分達のスタイルを貫き通し、ベンチ一体をなつて戦い続けたが、三田松聖が100-59の41点差で勝利し4連覇を達成した。





キャプテンインタビュー

◆男子優勝

育英高校
キャプテン⑦山川 英哲さん



6年ぶりの優勝を決めた今の気持ち

本当にうれしいです。自分の力ではなく、先輩・後輩や先生方、応援に来てくれるOBや保護者の方全員のおかげで優勝できたと思っています。報徳学園さんにはずっと、あと1歩が届かず悔しい思いをしてきたので、ここで勝ち切ることができて良かったです。

今日の試合に向けてチームでどんなことを話しましたか

目立つのではなく、いつも通りのことをやろうと話しました。育英高校は、リバウンド・ルーズボールからの速攻が強みなので、それを活かそうと。

決勝戦を振り返って

第4Q残り5分という厳しい時間帯にチームメイトの③竹本の3

Pシュートが決まった瞬間に流れをつかめたと思っています。勝負のポイント、普段から誰にも負けないよう練習しているリバウンド・ルーズボールをマイボールとして取りきれたことです。

キャプテンとして心掛けてきたことは何ですか

後輩が全国優勝しているメンバーということもあり、プレッシャーがあったのですが、副キャプテンを中心にチーム全体が支えてくれました。だから私自身は、チームで1番声を出すなど行動の面でチームを支えようと考えてやってきました。

チームの課題、今後の目標を教えてください

ベスト8を目指します。リバウンド・ルーズボールなど、泥臭いプレーを日本一頑張ります。

自チームの1番好きなところはどこですか

人間性を大切にしているところです。バスケットの技術だけでなく、あいさつや行動の丁寧さも兵庫県1位のチームを目指しています。

◆女子優勝

三田松聖高校
キャプテン⑨初谷 一葉さん



優勝を決めた今の気持ちは？

ウィンターカップ兵庫県予選の4連覇がかかっているというプレッシャーはありましたが、インターハイが終わってからしっかりと練習を重ねてきたのでとてもうれしいです。

決勝戦を振り返ってみて

神戸龍谷さんはボール運びやリバウンドなどプレッシャーがきついチームなので、そこで負けないように気持ちを入れてプレーをしました。試合前は、自分たちのやらなければいけないことをしっかりとやりきるとチームメイトと約束しました。具体的には笑顔でプレーする、チームのつながりを大切にすること、バスケットの技術以外の部分も大切にすることが自分たちのバスケットだと思っています。

今大会に向けて準備してきたことは？

自分たちの目指すバスケットはプレーとプレーの隙間をなくす、

やらなければいけないことを常に探していくというものなので、そこを練習してきました。そうしたところが三田松聖の強みであると思っています。

キャプテンとして心けていることは？

自分が先頭に立って頑張ることはもちろんですが、それだけでなく自分が後ろに回ってチームメイトの背中を押してあげられるような、そんな姿を考えています。

チームの好きなところは？

つながりを大切にしているところです。試合や練習などうまくいかない時に先輩も後輩も関係なくお互いに言い合えるところ、それぞれの考えや気持ちを大切にしているところです。

全国大会へ向けて

前回のインターハイではベスト16だったのですが、その時はベスト8を目指していました。そこには届かなかったのですが今度のウィンターカップではベスト8はもちろん、メインコートで試合ができるベスト4を目指したいです。そのために自分たちのバスケット、リードされた時のねばりや、チームのつながりを大切にしていきたいです。

ハーフタイムパフォーマンス



選手の皆さんの今日までの努力が出しきれよう
私たちも会場をひとつに兩一杯応援させていただきます！

神戸ストークスチアスクール



神戸野田高等学校ダンス部



第77回 兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）



BUBBLES、OTCくきやが制覇!!

令和5年12月3日（日）
王子スポーツセンター

《総評》

第77回兵庫県民バスケットボール大会（一般の部）の最終日が12月3日（日）におこなわれ男子はBUBBLES、女子はOTCくきやの地域リーグ勢が制した。

男子

決勝

BUBBLES 107 [25-21・23-12] 65 SELFISH
26-10・33-22

BUBBLES										SELFISH									
反則	自投	②	③	得点		No.	No.	得点	③	②	自投	反則							
2	0	5	0	10	大町 堯舜	2	0	福原 弦	—	—	—	—							
—	—	—	—	—	細井 皓貴	3	1	東海 圭悟	—	—	—	—							
0	2	4	1	13	古谷 太一	6	2	近藤 海斗	—	—	—	—							
1	0	6	3	21	高山 寛史	7	3	的場 渉	—	—	—	—							
0	0	2	2	10	米田 梨央	8	5	本多 直也	9	1	3	0	2						
0	0	1	0	2	豊永 晴達	10	7	井上 健太	9	3	0	0	2						
—	0	0	0	0	木村 大倫	11	8	辻林 由宏	2	0	0	2	3						
0	3	2	2	13	山西 大翔	14	10	宇杉 心吾	—	—	—	—							
0	0	0	0	0	内海 誠也	15	11	橋之口 海	17	2	5	1	0						
—	—	—	—	—	山本 泰右	28	14	岡浦 拓巳	16	0	8	0	0						
0	1	4	3	18	一番ヶ瀬 景	34	15	安齋 慶	—	—	—	—							
0	0	0	0	0	IZATBEK NASRETODINOV	46	18	鈴木 翔太	6	0	3	0	1						
3	1	4	2	15	實方 一郎	51	21	岡本 悠	—	—	—	—							
3	1	2	0	5	古賀 寛之	77	33	山本 亮太	—	—	—	—							
								34 藤原 亮仁	—	—	—	—							
								91 富澤 岳	6	0	2	2	3						
9	8	30	13	107					65	6	21	5	11						

戦評

【第1クォーター】

SELFISH⑦井上の3Pシュートが決まり先制。BUBBLESも⑨實方が3Pシュートを決め返す。SELFISH⑩鈴木が決めればBUBBLES⑭一番ヶ瀬も決め譲らない。SELFISH⑩橋之口がミドルを決めるもBUBBLES⑨實方が2本目の3Pシュートを決め12-9とする。SELFISH⑩鈴木ドライブが決まり13-11。BUBBLESはディフェンスからブレイクで加点していく。SELFISHは果敢にドライブで仕掛けるもBUBBLESの高さの前にシュートが決まらず逆にブレイクが連続で決まり17-11となったところで堪らず前半1回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、BUBBLESは前からディフェンを仕掛けるもSELFISHは突破しファールを得る。BUBBLESは⑭一番ヶ瀬が3Pシュートを決めリードを広げる。SELFISHは⑥本多が連続得点し20-17と点差を詰める。さらに⑤本多がゴール下を決め1点差とする。BUBBLESは⑧米田が3Pシュートを決め、さらにディフェンスから⑦古賀がブレイクで加点しリードを広げる。SELFISH⑩辻林がファールで得たフリースローを確実に決める。25-21とBUBBLESが4点リードしこのクォーターが終了した。

【第2クォーター】

BUBBLESは⑥古谷、SELFISHは⑭岡浦が個人技で加点する。SELFISHは⑭岡浦のミドルで詰めるもBUBBLESが⑭山西、⑭一番ヶ瀬の連続3Pシュートで一気にリードを広げる。②大町もオフenseリバウンドを沈め11点差とする。(37-26) BUBBLES⑭山西のドライブが決まり点差が広がる。さらに⑦米田が連続得点し43-26とこの日最大得点差となったところでSELFISHが堪らずタイムアウトを請求した。タイムアウト後もBUBBLESの勢いは止まらずリードが広がる。SELFISHも⑩富沢がドライブから加点する。そのタイミングでBUBBLESはタイムアウトを取り、流れを切った。タイムアウト後、お互いなかなか得点できない時間が続いたが前半終了間際にSELFISH⑩橋之口が3Pシュートを決め48-33とBUBBLESリードで前半が終了した。



【第3クォーター】

BUBBLES⑥古谷のドライブで加点。ファールで得たボーナスも確実に決めリードを広げる。SELFISHは⑦井上が3Pシュートを決める。BUBBLESは②大町、⑥古谷、⑨實方が得点しリードを広げる。なかなか得点できないSELFISHを尻目にBUBBLESが連続で



3Pシュートを決め74-43とBUBBLESが31点差をつけこのクォーターが終了した。

【第4クォーター】

SELFISHは⑩橋之口がミドルを決め反撃する。BUBBLESは②大町のダンクが決まり点差を広げる。後のないSELFISHは果敢に攻め⑭岡浦のドライブ、⑪橋之口の3Pシュートで加点するもBUBBLESの勢いは最後まで止まらず107-65でBUBBLESが優勝を飾った。



女 子

決 勝

OTCくきや 84 [25-23・21-9] 62 播磨ホワイトボックス
[15-13・23-17]

OTCくきや				播磨ホワイトボックス			
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点
1	2	5	3	21	屋宜百合香	6	0
1	1	1	0	3	阿部 瑞稀	7	1
-	-	-	-	-	山口 萌瑠	8	2
1	2	5	0	12	矢田 貴海	9	3
1	2	3	0	8	陳岡沙亜羅	10	10
-	-	-	-	-	藤田 真生	11	14
1	0	3	0	6	比嘉すずな	12	16
3	0	2	0	4	佐坂 明音	13	17
0	0	0	4	12	田代 ゆい	14	18
3	2	6	0	14	豊田 有紗	15	19
-	-	-	-	-	杉本 舞	18	24
0	0	2	0	4	西山 美優	19	30
					奥村 萌生	77	草刈 美樹
11	9	27	7	84			62
							5
							20
							7
							16

戦評

女子は昨年同様、地域リーグ所属のOTCくきやと播磨ホワイトボックスの両チームによる決勝戦となった。

【第1クォーター】

OTCくきや（以下、OTC）は⑥屋宜、⑮豊田のミドルが連続で決まりリードする。播磨ホワイトボックス（以下、播磨）はOTCの激しいディフェンスの前になかなか得点できないが⑭桐木の3Pシュートが漸く決まる。OTCはインサイドの⑮豊田にボールを集め加点、⑥屋宜の3Pシュートも決まりリードを広げる。なかなか得点できないホワイトボックスを尻目にOTCはブレイクで加点、15-5と10点差となったところで播磨がタイムアウトを請求した。



タイムアウト後、ピックから⑩坂井が3Pシュートを決め反撃、⑩井上のミドルも決まり点差を詰める。播磨は⑩坂井が躍動し連続して得点し15-14と1点差となったところでOTCが前半1回目のタイムアウトを取った。タイムアウト後、OTCはインサイドにボールを集めるもミスとなり播磨が走り加点する。OTCは⑬佐坂のミドル、⑭田代の3Pシュートで加点、⑥屋宜の3Pシュートも決まり23-18となる。播磨⑩坂井の3Pシュートが決まり23-21とするもOTC⑥屋宜のブレイクが出て25-21、播磨も⑩井上がゴール下を決め25-23とOTCが3点リードし第1クォーターが終了した。

【第2クォーター】

OTCはセットプレーから⑭田代3Pシュートを決める、対する播磨も②高木がミドルを決め譲らない。播磨は⑯石丸がオフェンスリバウンドからゴール下を決め加点するもOTC⑥屋宜が3Pシュートを沈めリードを広げる。⑥屋宜のブレイクも決まり9点差となり播磨が堪らず前半2回目のタイムアウトを請求した。タイムアウト後、お互いミスが続くもOTCはインサイドの⑮豊田が加点、ファールで得たフリースローも確実に決め加点しリードを広げる。播磨は苦しい時間帯が長くファールで得たフリースローのみの得点となり46-32とOTCが14点リードし前半を終了した。

【第3クォーター】

OTCは⑮豊田がオフェンスリバウンドから加点しリードを広げる。播磨も⑩井上がオフェンスリバウンドから加点。播磨は⑩坂井がオフェンスリバウンドをタップで押し込み点差を詰め⑭桐木の3Pシュートも決まり52-39となったところでOTCが後半1回目のタイムアウトを取った。タイムアウト後、播磨が激しくディフェンスをするもOTC⑨西山がシュート決める。播磨も⑭桐木がシュートを決め譲らない。OTC⑥屋宜がミドルを決めれば播磨の⑯石丸が見事なロールターンからシュートを決め点の取り合いとなる。播磨はOTCの高さの前にリバウンド争いからファールが高みフリースローを与えてしまう。61-45と少しOTCがリードを広げこのクォーターを終了した。

【第4クォーター】

播磨⑰田中がディーブ3Pシュートを決めこのクォーターが始まる。OTCは⑮豊田がオフェンスリバウンドを沈め加点。播磨⑩坂井のドライブ、OTC⑩陣岡のミドル、播磨②高木のミドルも決まり入れ合いとなる。播磨⑩坂井がドライブからバスケットボールカ

ウント沈めOTCは堪らずタイムアウトを取り立て直す。タイムアウト後、⑩坂井はボーナスショットも決め65-57とする。OTCはオフェンスリバウンドから連続得点しリードを広げる。播磨はミスから走られファールで⑥屋宜にフリースローを与えたタイミングで後半2回目のタイムアウトを請求した（69-57）。

タイムアウト後、⑥屋宜が確実に2本決めリードを広げる（71-57）。播磨はシュートまで行くもなかなか決めきれない。OTCはその後手堅く得点し84-62で県民大会を制した。



ウィンターカップ2023
第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会

男子・育英は3回戦進出、女子・三田松聖は念願の初戦突破

令和5年12月23日（土）～12月28日（木） 東京体育館・武蔵野の森スポーツプラザ

《総評》

男子決勝は2019年以来二度目の福岡対決となり、福岡第一が63－53で福岡大大濠に勝利し、福岡県予選決勝リーグにおいて61－79で敗退した借りを返し、4大会ぶり5度目の優勝を決めた。福岡第一は準々決勝の東山（京都）戦で、第4Q残り3分で10点負けから⑩崎濱の活躍で74－71と大逆転勝利を収めた。東山⑤瀬川（神戸市立本山山中・ゴッドドア出身、2年生）は32得点したが及ばなかった。

女子決勝は京都精華が岐阜女子を63－59の僅差で下し、2大会連続2回目の優勝と、インターハイ・トップリーグとの3冠を達成した。岐阜女子はインターハイ・トップリーグともに京都精華に延長で敗れており、リベンジは果たせなかったが、準々決勝の桜花学園（愛知）戦で第4Q残り8分32－53の21点負けから、④粕野が3Pシュートを7本連続成功させ、残り10秒でのゴールにより61－60で歴史的な逆転勝利を収めた。

兵庫県男子代表の育英は1回戦で九州学院（熊本）との接戦を制し、2回戦で別府溝部学園（大分）に会心の逆転勝利を収めた。しかし、2回戦で効いた外国人留学生対策が美濃加茂（岐阜）には通じず、3回戦で敗退となった。

兵庫県女子代表で4年連続4回目の出場となった三田松聖は、1回戦で県立山形中央に快勝してウィンターカップ初勝利を挙げた。2回戦は外国人留学生を擁する京都両洋に第3Qまで善戦するも、敗北を喫した。



写真提供：日本バスケットボール協会

男子															
1回戦															
育英								九州学院							
育英 75								九州学院 71							
22－14・17－14								20－23・16－20							
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	③野	②野
0	—	—	—	—	堀川 優太	0 4	今村 龍平	13	0	6	1	2	—	—	—
0	2	1	3	13	竹本 龍二	3 5	今坂 颯斗	—	—	—	—	—	—	—	—
1	1	1	1	6	長田 祐聖	5 6	坂本 天馬	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	2	0	4	山内 康生	6 7	福山 拓海	17	1	6	2	3	—	—	—
2	1	2	0	5	藤村 日向	11 8	緒方 拓海	0	0	0	0	0	—	—	—
—	—	—	—	—	竹内 英太	15 9	松井龍之介	0	0	0	0	0	—	—	—
4	0	0	0	0	三井 太雅	17 10	清永 康介	—	—	—	—	—	—	—	—
2	0	2	0	4	羽澤 要	18 11	兼瀬 友貴	18	1	6	3	2	—	—	—
2	2	7	0	16	馬場 瑠音	22 12	山口 幹太	15	3	2	2	4	—	—	—
—	—	—	—	—	瀬川 莉功	24 13	田中 翔大	4	0	2	0	4	—	—	—
1	0	6	0	12	熊谷 壮真	31 14	進藤 孝虎	—	—	—	—	—	—	—	—
3	6	2	1	13	竹内 琉人	39 15	上村 榮大	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	1	0	2	山川 英哲	57 16	井上 智稀	4	0	2	0	2	—	—	—
—	—	—	—	—	川村 海誠	69 17	上村 太志	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	廣井 悠真	91 18	船木 達悟	0	0	0	0	0	—	—	—
15 12 24 5 75								71 5 24 8 17							



写真提供：日本バスケットボール協会

2回戦

育英 71								別府溝部学園							
21－15・9－21								65 (大分)							
16－16・25－13															
反則	自投	②野	③野	得点	No.	No.	得点	③野	②野	自投	反則	反則	自投	③野	②野
3	0	1	0	2	堀川 優太	0 1	橋富 蓮斗	0	0	0	0	0	—	—	—
0	5	0	5	20	竹本 龍二	3 3	喜屋武琉大	7	1	2	0	1	—	—	—
1	0	0	2	6	長田 祐聖	5 7	福浦 輝	—	—	—	—	—	—	—	—
1	0	1	0	2	山内 康生	6 8	久保田雅斗	—	—	—	—	—	—	—	—
0	2	3	0	8	藤村 日向	11 11	大庭涼太郎	15	1	6	0	4	—	—	—
—	—	—	—	—	竹内 英太	15 21	坂田 生吹	0	0	0	0	1	—	—	—
2	4	0	0	4	三井 太雅	17 23	スタークス ジュリアン	—	—	—	—	—	—	—	—
2	1	2	2	11	羽澤 要	18 24	原田 正心	4	0	2	0	3	—	—	—
4	0	3	1	9	馬場 瑠音	22 25	嶋野 太貴	5	1	1	0	2	—	—	—
—	—	—	—	—	瀬川 莉功	24 27	島崎 拓也	3	1	0	0	0	—	—	—
4	0	2	0	4	熊谷 壮真	31 30	足立 晏	—	—	—	—	—	—	—	—
2	0	1	0	2	竹内 琉人	39 31	杉本 大成	—	—	—	—	—	—	—	—
0	0	0	1	3	山川 英哲	57 32	オマニンドゥ ジョン	11	0	4	3	1	—	—	—
—	—	—	—	—	川村 海誠	69 46	津崎 湊	10	2	1	2	2	—	—	—
—	—	—	—	—	廣井 悠真	91 55	ボールオゲネメノ	10	0	5	0	4	—	—	—
19 12 13 11 71								65 6 21 5 18							



写真提供：日本バスケットボール協会

戦評

【第1Q】

育英は別府溝部の長身センター⑩ジョンにディフェンスを集中させる。そして②馬場が1本、③竹本と⑤長田が2本ずつの計5本の3Pシュートを次々に沈め、残り2分で21－9と育英が大きくリードする。別府溝部は残り5分のタイムアウト後に⑤ボールのゴール下シュート2本で反撃し、残り0分に④津崎が2本の3Pシュートを決め、点差を詰める。別府溝部のディフェンスは⑩ジョンが出ていればマンツー、⑤ボールが出ていればゾーンと使い分けている。第1Qは21－15育英6点リードで終える。

【第2Q】

別府溝部がディフェンスのプレッシャーを強めると、育英のシュートが入らなくなり、得点が止まり、逆転される。残り5分、別府溝部⑤ボールがゴール下を決めて21－24とリードを広げると育英はタイムアウト。そこから育英はゾーンディフェンスに変え、⑪藤村がドライブを決め、⑩三井が別府溝部⑤ボールからオフェンスチャージングのファウルを誘う。さらに③竹本の3Pシュート、①堀川のフックシュートで育英が勢いを取り戻すが、別府溝部は⑩ジョンのゴール下などで逆転を許さない。30－36別府溝部リードで後半へ。

【第3Q】

育英はディフェンスをマンツーマンに戻す。育英は②馬場がフックシュートや速攻を決めて追撃するも、別府溝部は⑪大庭がフローターやドライブを決めて点差が詰まらない。残り4分、育英⑥山川が3Pシュートを決めるとそこから育英の速攻が勢いづき、残り2分で⑩羽澤が速攻でのバスケットカウントのワンスローも決め、46－46の同点とする。育英はオールコートで激しいディフェンスを展開して波に乗るかと思われたが、別府溝部⑪大庭が3Pシュートやドライブを沈め、46－52別府溝部リードで最終Qへ。

【第4Q】

別府溝部⑩ジョンにゴール下カウント&ワンスローを決められた育英は、⑩羽澤と②馬場を同時起用し、鍛え抜かれたフットワークを生かして1－3－1から変幻自在のゾーンディフェンスを展開する。別府溝部の得点が停滞する間に、育英は③竹本と⑩羽澤が2本ずつ3Pシュートを決めるなどして点差を詰め、残り2分⑩熊谷のゴール下でついに64－63と逆転に成功する。別府溝部はタイムアウトで立て直しを図るが、育英は③竹本や⑩三井のフリースローで逃げ切り、育英が71－65で鮮やかな逆転勝利を収めた。

【スタッツなどより】

育英は、別府溝部の2mを超える外国人留学生2人（試合出場枠は1人）に対し、②馬場、⑩羽澤、①堀川が交代しながら徹底的にマークし、ゴール付近やリバウンドではチーム一丸となって留学生を囲み、2人に計21得点しか許さなかった。また、育英は2Pシュートの確率は30.2%（13本）と振るわなかったが、3Pシュートは30.6%（11本）とそれを上回った。フリースローは75%（12本）と高確率で、接戦の勝利の一つの要因となった。



写真提供：日本バスケットボール協会



写真提供：日本バスケットボール協会

3回戦

美濃加茂 (岐阜)					99	29－19・26－18 25－10・19－25					72	育英				
美濃加茂												育英				
反則	自投	②野	③野	得点		No.	No.			得点	③野	②野	自投	反則		
0	2	10	3	31	北條彪之介	4	0	堀川 優太	2	0	1	0	2			
1	1	1	0	3	遠山 広貴	5	3	竹本 龍二	6	2	0	0	1			
3	9	8	0	25	エブナ フェイバー	6	5	長田 祐聖	9	3	0	0	1			
0	1	0	0	1	本田 海翔	7	6	山内 康生	2	0	1	0	1			
0	0	0	0	0	藤原 涼介	8	11	藤村 日向	8	2	1	0	0			
0	0	0	0	0	後藤 陽南	9	15	竹内 英太	0	0	0	0	0			
3	0	3	1	9	後藤 宙	10	17	三井 太雅	4	0	1	2	3			
0	0	3	0	6	関 健朗	11	18	羽澤 要	13	2	2	3	4			
1	0	5	0	10	深見 響敏	12	22	馬場 瑠音	17	0	8	1	1			
1	0	3	0	6	アブドラムハマド	13	24	瀬川 莉功	0	0	0	0	1			
0	2	1	0	4	藤田 大輝	14	31	熊谷 壮真	0	0	0	0	4			
0	0	1	0	2	福田 玲生	15	39	竹内 琉人	7	0	3	1	0			
0	0	1	0	2	田堀 瑛大	16	57	山川 英哲	2	0	0	2	1			
0	0	0	0	0	鈴木 陸音	17	69	川村 海誠	2	0	1	0	0			
0	0	0	0	0	村上 貴羅	18	91	廣井 悠真	0	0	0	0	0			
9 15 36 4 99										72	9	18	9	19		



写真提供：日本バスケットボール協会

戦評

【第1Q】

両者マンツーマンディフェンスで試合が始まる。育英は美濃加茂の外国人留学生⑥エブナにマークを集中させるが、美濃加茂④北條が3Pシュートや速攻、1on1で得点を量産し、残り6分、14-4とリードされて育英がタイムアウト。プレスディフェンスを仕掛けて活路を開こうとするが、美濃加茂⑥エブナが自身のゴール下シュートだけでなく、得点につながるパス回しも④北條とともに効果的に使うので、育英はディフェンスの目的が絞れない。残り3分で24-11と点差が開くが、育英は⑪藤村と⑤馬場が3Pシュートを決めるなどして点差を詰める。29-19と美濃加茂リードで第1Qを終える。

【第2Q】

美濃加茂は順調に得点を伸ばしていくが、育英は攻めあぐむ場面が続く、残り7分39-22となったところでタイムアウト。育英は⑩羽澤がリバウンドからシュートを押し込んだり、②馬場がフェードアウェイシュートを決めたりするが、パスミスが多く、シュートブロックもされてリズムに乗れない。残り3分、ゴール下でリバウンドを支配していた美濃加茂⑥エブナが3つ目のファウルで交代すると、育英はゾーンプレスを仕掛けて反転攻勢に出る。⑤長田が2本の3Pシュートを決めるがそれ以外は決められず、点差を詰めるこ

とができない。55-37美濃加茂リードで後半へ。

【第3Q】

育英はゾーンディフェンスを継続する。③竹本の3Pシュートで反撃開始と思われたが、美濃加茂が⑫深見の速攻やパスを起点に育英のゾーンディフェンスを攻略し始める。育英は2度のタイムアウトをはさんで立て直しを図るが、結局は②馬場のドライブ、⑬三井のフローター、⑩羽澤の3Pシュートしか決められない。育英はこのクォーターでさらに点差を広げられ、80-47美濃加茂の大量リードで最終クォーターへ。

【第4Q】

育英はファウルも辞さない必死のディフェンスで美濃加茂を捉えようとし、③竹本の3Pシュート、⑨竹内のドライブ、②馬場の3連続シュートなどで残り4分、88-61と追い上げる。しかし、主力を交代させた美濃加茂に対して、これ以上点差を詰めることができなかった。こうして美濃加茂が99-72で勝利し、準々決勝に駒を進めた。

【スタッツより】

美濃加茂④北條は3Pシュート3/5、2Pシュート10/13、フリースロー3/3と、かなり高い確率でシュートを決め、31得点を挙げた。美濃加茂⑥エブナも25得点13リバウンドと活躍した。



写真提供：日本バスケットボール協会

女子

1回戦

三田松聖 69										19 — 14 · 16 — 13										18 — 7 · 16 — 16										50 県立山形中央																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
三田松聖																				県立山形中央																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
反則	自投	②野	③野	得点			No.	No.				得点	③野	②野	自投	反則																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									</

戦評

【第1Q】

三田松聖はマンツーマン、山形中央は3-2ゾーンディフェンスでスタート。序盤、三田松聖のシュートが入らず、さらにファウルが重なる。山形中央は②下井が攻撃の起点となり、得点を重ねる。三田松聖は⑩東（寧）が2本の3Pシュートを決めて何とかついて行く。やがて山形中央も攻めあぐむようになり、残り3分、8-9山形中央リードでタイムアウト。だがリズムをつかんだのは三田松聖で、⑧崔が2本のゴール下や⑩東（寧）が3本目の3Pシュートを決める。19-14三田松聖リードで第1Q終了。

【第2Q】

三田松聖は⑩初谷のミドルシュート、⑬竹中のリバウンドからのシュートでリードを広げる。山形中央は⑧宮林のゴール下シュートなどで対抗するが、②下井の1on1のシュートがリングに嫌われ、得点が伸びない。三田松聖も5分以上フィールドゴールが決まらず苦しい展開だが、⑬渡部らがフリースローを決め、何とかリードを保つ。残り3分から、三田松聖は⑭木下が3Pシュートを、⑦東（奈）がドライブからのバスケットカウント&ワンスローを決め、ようやく流れをつかむ。35-26三田松聖リードで後半へ。

【第3Q】

三田松聖が攻めあぐむ間に、山形中央は⑨米村のジャンプシュートや⑧宮林のゴール下などで4点差まで詰め寄る。一方、三田松聖は⑩初谷の連続ゴールで何とかリードを保つ。残り5分からお互いにシュートを放つがほぼ決まらず、苦しい展開が続く。それでも三田松聖は笑顔でコミュニケーションをとり続けていると、残り2分から⑦東（奈）がドライブ、さらにゴール下バスケットカウント&ワンスロー、3Pシュートと立て続けにゴールを奪い、流れは一気に三田松聖へ。さらに⑦東（奈）は⑬竹中のブザービートのシュートをアシストする。山形中央は残り5分からフィールドゴールがなく、53-34と三田松聖がリードを大きく広げて最終クォーターへ。

【第4Q】

山形中央はディフェンスのプレッシャーを強め、⑨米村の2本の3Pシュートなどで追いすがるが、シュートを思うように決められない。三田松聖は⑬竹中や⑧崔のゴール下シュートや、ファウルで得たフリースローで得点を重ねる。クォーター後半では両チームとも選手交代を重ね、両チームの選手全員が出場機会を得た。こうして69-50で三田松聖がウインターカップ初勝利を飾った。

【スタッツから】



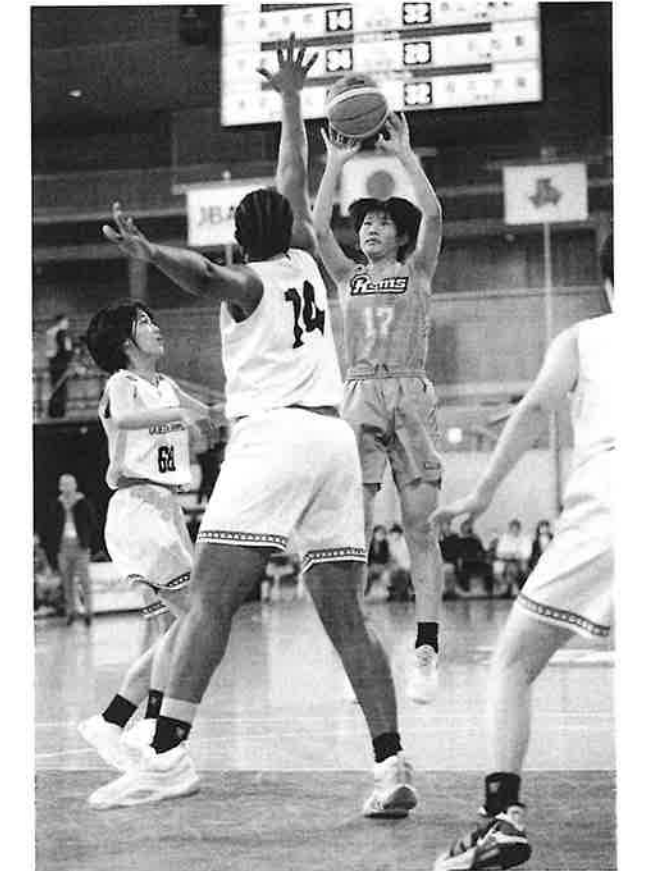
写真提供：日本バスケットボール協会

両チームともフィールドゴール（2P+3P）のシュート率が30%を下回り、苦しい展開となった。しかし、三田松聖はオフェンスリバウンド21本／山形中央11本、ファウル10個／山形中央26個、フリースロー成功数18本／山形中央3本で、これらの点で相手を大きく上回っていた。

2回戦

京都両洋 94										23 — 21・16 — 23 29 — 26・26 — 6										76 三田松聖			
京都両洋										三田松聖													
反則	自投	②野	③野	得点	No. No.				得点	③野	②野	自投	反則										
0	0	0	0	0	カサハラマサキ	1	7	東 奈那	21	3	4	4	1										
—	—	—	—	—	杉山 心月	2	8	崔 瑠陽	14	0	6	2	2										
0	0	0	2	6	森口笑来美	3	9	東中 梓	—	—	—	—	—										
1	2	6	1	17	木谷 夢菜	7	10	竹内 愛	0	0	0	0	0										
4	0	4	0	8	谷口 心鏡	8	13	竹中 凜	12	0	6	0	3										
5	0	5	0	10	岡田 彩葉	9	14	黒田 希歩	—	—	—	—	—										
0	0	0	0	0	日渡 理緒	10	16	東 寧音	0	0	0	0	2										
0	0	0	0	0	中村 璃菜	12	17	渡部 陽美	15	1	4	4	0										
3	1	9	0	19	ビトリヤビコイ	14	30	花房 凜都	—	—	—	—	—										
0	0	0	0	0	中野有佳子	18	47	四谷 花音	—	—	—	—	—										
—	—	—	—	—	古川 光鈴	30	56	阿部 芽奈	—	—	—	—	—										
0	0	0	0	0	城地あさひ	31	77	白簀 空知	0	0	0	0	1										
2	0	6	3	21	木村 香穂	68	79	木下 楓	9	1	3	0	0										
3	1	4	1	12	廣浦 杏	69	85	初谷 一葉	5	0	2	1	3										
2	1	0	0	1	林 英美	77	88	小田歩羽彩	—	—	—	—	—										
20 5 34 7 94										76 5 25 11 12													

戦評



るも、残り3分20-8とリードされてタイムアウト。ディフェンスをゾーンプレスに変えると、交代が入った⑦東（奈）がいくつかの速攻を先導して、3本の速攻とフリースロー2本を決める。流れは完全に三田松聖に傾き、さらに⑧崔がバスケットカウント&ワンスローやターンシュートを決め、23-21と2点差に迫る。

【第2Q】

三田松聖はディフェンスをマンツーマンに戻す。三田松聖は⑩渡部がバスケットカウント&ワンスローを決めるも、その後は1on1を厳しくマークされ、追いかける展開となる。京都両洋は③森口が2本の3Pシュートを決めるが、多くの外角シュートが外れ、得点が伸びない。中盤から三田松聖は⑩渡部の1on1やパスを起点としたオフェンスがリズムに乗り、⑨木下、⑩渡部、⑦東（奈）が3Pシュートを次々と決め、残り2分で37-38と逆転に成功する。その後も⑩渡部のアシストで⑨木下や⑬竹中がシュートを決め、39-44と三田松聖がリードを奪って前半を終える。

【第3Q】

三田松聖は1-3-1のゾーンディフェンスを張るが、京都両洋⑥木村に2本連続で3Pシュートを決められて45-44と逆転され、マンツーマンに戻す。点の取り合いとなったこのクォーターは、三田松聖は⑧崔と⑬竹中がゴール下、⑦東（奈）が3Pシュート2本と速攻を決めて先行するも、京都両洋は外国人留学生⑭オコ



写真提供：日本バスケットボール協会



写真提供：日本バスケットボール協会

イのゴール下や⑥木村の3Pシュートやドライブ、⑦木谷のドライブや速攻などで離れず追いつがる。クォーター終盤に三田松聖⑬竹中がフローターやリバウンドから、⑨木下が⑩渡部のアシストからシュートを決め、三田松聖が68-70とわずかに2点リードして最終クォーターへ。

【第4Q】

三田松聖は⑧崔がドライブ、⑬竹中が速攻を決めるも、残り7分から3分ほどゴールが決められない。一方、京都両洋は⑭オコイが高さを生かして得点を積み上げ、残り5分で逆転に成功する。残り4分、三田松聖⑩初谷がドライブを決めて78-76と詰め寄るも、その後はまたゴールを決められない苦しい時間が続き、タイムアウトを取っても流れを変えられない。京都両洋は試合の流れを完全につかみ、⑦木谷がドライブやバスケットカウント&ワンスロー、3Pシュートを決めて三田松聖を引き離す。そのままタイムアップを迎え、94-76で京都両洋が勝利した。

【スタッツから】

三田松聖のトータルリバウンドは41本で、京都両洋の61本に大きく及ばなかった。第4Qになって京都両洋の外国人留学生の高さの前にリズムを崩してしまったが、それまでの健闘を称えたい。

0から頂点を極めた『奇跡』への『軌跡』

～素人監督が高校女子バスケットボール部の創設から
全国の頂点へ駆け上るまでの
苦闘、挫折、栄光の指導実践の軌跡（4）～
は、次号175号に掲載予定です。

未来を見据えた
土地活用・マンション経営ができるのは

TEAM SHINWA

にお任せください!!

さあ、どんな未来にする？

土地活用のプロフェッショナル、**信和** があなたの未来のお手伝いを致します。

マンションオーナーの夢実現いたします。

信和が全てを
お任せください
想像以上の
提案力

事前準備は大切、何度も何度も丁寧に！
 明治25年創業。豊富な経験と安心の実績
 入居率95%以上の実績
 マンション一棟販売 ▶ ご提案するのは TEAM SHINWA の自社開発物件。だから、安心。



SHINWA 信和グループ

お電話 0120-567-169 WEB 信和建設株式会社 www.shinwakensetsu.com
 受付時間/9:00~18:00 信和不動産株式会社 shinwa-fudousan.co.jp
 本社●大阪市中央区南船場1-18-11 SRビル長堀

創業
35年
合宿の老舗

プロが目的に あわせてご提案

合宿

貸切バス
手配

大会運営

バスケットボール応援

フェニックス観光は学生バスケットボール
チームを応援しています！

UNIV.大会

univ-network.com

遠征

大学クラブの遠征
中・高生クラブの遠征

会議・研修

林間学校
修学旅行

国内・海外
個人旅行

卒業旅行



■本社
東京・新宿
■営業所
広島/京都/つくば/
仙台/金沢/長野/山梨

フェニックス観光



フェニックス観光株式会社

〒600-8009 京都府京都市下京区四條通室町東入函谷餅町アーバンネット四條烏丸ビル6階
TEL:075-279-4253 FAX:03-3366-3200

世界初 リバーズ液晶フィルム

FL Cystal Brind

FL クリスタルブラインド

ハニカム複合パネル

 **bencore** ベンコア

インテリア総合商社

 **Yamagami**
Creating Comfort



山上 WEB SITE



山翠会匠



FL Cystal Brind



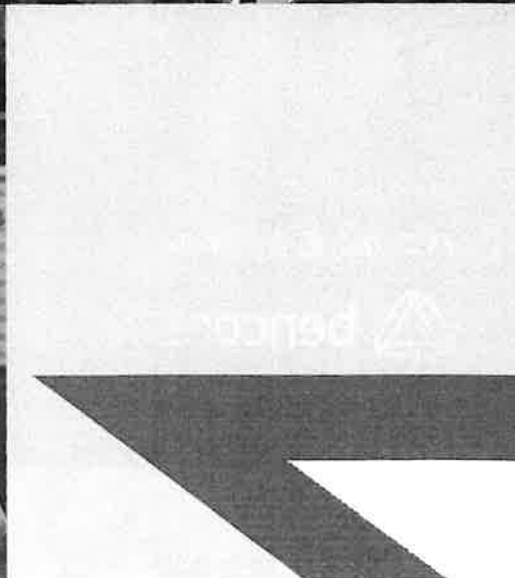
bencore

株式会社 山上

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-2-7 TEL(078)304-8093 (代) FAX(078)304-8094

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ  WINNER
HOCKEY HANDBALL

 toto
HOCKEY HANDBALL

 BIG